

大阪歴史博物館年報

令和6年度



大阪歴史博物館

令和7年10月

目 次

はじめに	1
展観事業	1
資料収集	5
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し	1 1
教育普及事業	1 1
学校連携事業	1 2
ボランティア関連事業	1 3
連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携	1 4
文化庁補助金等による取り組み	1 5
展示改修計画	1 5
広報宣伝活動	1 5
民間連携事業	1 5
刊行物	1 5
調査研究活動	1 6
受嘱・派遣・視察	2 2
令和6年度入場者数	2 2
利用規定	2 3
運営組織	2 4

はじめに

令和6年度は翌令和7年度に大阪・関西万博の開催をひかえ、館活動の活性化をめざしていくつかの新規およびリニューアル事業に取り組んだ。

このうち新規事業については、令和4年度以来取り組んできた民間事業のノウハウを活用しながら博物館の付加価値向上と来館者層の拡充を目的とした歴博魅力創造パートナーズとの連携事業の立ち上げがあげられる。この連携はレストラン・ショップの運営に加えさまざまなソフト事業、情報発信支援事業という幅広い分野でひとつの事業体と連携を組むところに特徴がある。初年度ということで互いに手探り状態ではあったが、当館だけでは実現しえなかった事業の展開やレストラン・ショップ事業での増収が得られるなど一定の手ごたえがあった。この連携は5年計画であり、今後さらに内容を充実させていかなければならない。

文化庁の補助金を得て、大阪市博物館機構の僚友館らとともに、館蔵資料のデータベース構築・アーカイブ化の一環として高精細撮影した重要文化財関ヶ原合戦図屏風の動画等が制作できたことも、令和7年度に取り組みである「大阪の宝」展に向け館蔵資料の発信力を高めていくうえで大きな成果となった。

ボランティア事業は4月から再出発した。活動場所は館内が基本であるが、来館者への声かけや質問対応など来館者サポートを新たに開始するとともにイベントでの運営補助に加わっていただくなど、活動の幅を広げつつある。

最後に令和6年度末をもって解散した大阪市文化財協会について触れておきたい。同協会は当館が開館以来活動の柱のひとつとして掲げている難波宮など市内の考古学に関連する事業の推進に不可欠な存在であった。ここにこれまでの同協会の長年の活動とご協力に対し敬意と感謝を捧げたいと思う。

大阪歴史博物館 館長 大澤研一

展観事業

常設展示

● 10 階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また、展望窓から実際の難波宮跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

● 9 階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では、中世大坂の町の様子を大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

● 8 階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、視覚表現を多用したパネルやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、2ヵ月程度の期間で実施している。

● 7 階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を原寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

● 難波宮跡 遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）がおかれていた。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち15棟を地上表示し、1棟を復元展示している。

● タイム・カプセルEXPO'70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には2機が埋設されているが、当博物館の1階北東のエスカレーター奥に、展示している。

常設展示更新の状況

10・9・7階および1階エントランスにおいて、59件の展示替えを行った。各階を縦断するテーマ展示は、「妖怪とまじない」（7月31日～9月30日）を開催した。

階	コーナー	内 容	期 間	テーマ
10	特設コーナー	古代宮都の瓦	4月10日～6月24日	【テーマ展示】妖怪とまじない
10	特設コーナー	黒曜石のふるさと 北海道・白滝の石器	6月26日～9月30日	
10	特設コーナー	古代のいのり 近世のいのり	10月2日～12月27日	
10	特設コーナー	上町台地の失われた古墳を探して	1月5日～3月31日	
10	難波宮を掘る	後期難波宮内裏回廊の調査（写真パネル）	1月8日～5月4日	
10	古代難波の序章	大川北岸で見つかった古墳時代の土師器・須恵器	6月21日～9月2日	
10	古代難波の序章	日本最古の呪符木簡（複製）	7月31日～9月30日	
10	古代難波の序章	三国時代の新羅土器	2月5日～	
10	難波京の風景	「米」や「酒」と書かれた墨書土器	1月9日～	
10	難波京の風景	「四月八日」と墨書された土師器杯	3月12日～	
9	まちの生活	天神祭	6月12日～7月29日	【テーマ展示】妖怪とまじない
9	まちの生活	妖怪とまじない（河童図、文楽首、郷土玩具など）	7月31日～9月30日	
9	まちの生活	綿作・加工関係資料（『綿圃用務』、糸車、『河内木綿譜』など）	10月2日～1月13日	
9	まちの生活	大和川と淀川で見つかったもの	1月15日～4月21日	
9	都市と近郊農村	鳴野村と大坂城	10月2日～1月18日	
9	都市と近郊農村	富田の酒造り	1月18日～5月6日	
9	大阪の幕末・維新	福澤諭吉と大阪	8月21日～12月27日	
9	大阪の幕末・維新	江戸時代の南海地震と大阪	1月5日～4月21日	
7	都市の構造	国勢調査員任命書、国勢調査記念章	1月5日～3月24日	
7	都市の構造	大阪と米騒動（購米補助券調査表など）	3月26日～8月25日	
7	近代都市の建設	大阪市交通局庁舎	11月20日～	
7	地域のなかの戦争	防空関連の資料、備品	8月6日～8月31日	
7	地域のなかの戦争	綿入れ	11月5日～1月17日	
7	地域のなかの戦争	玩具と軍歌～近代日本の子どもの身近にあったもの～	1月18日～8月31日	
7	博覧会と大阪	日本現代風俗絵巻「春・夏の巻」を「秋・冬の巻」に変更	8月31日～1月25日	
7	博覧会と大阪	日本現代風俗絵巻「秋・冬の巻」を「春・夏の巻」に変更	1月26日～8月19日	
7	産業の展開	「日の本タビ」の商品ラベルと足袋	7月10日～11月16日	
7	産業の展開	大砲製造所門鑑札	7月24日～9月2日	
7	産業の展開	大阪砲兵工廠衛生調査報告（第二巻）	9月4日～5月26日	
7	産業の展開	能登鉄工所写真2点	11月17日～2月17日	
7	産業の展開	大阪紡績会社と紡績女工	2月19日～5月26日	
7	産業の展開	戦前の回漕店	2月19日～5月26日	
7	美術工芸の諸相	新編裁縫教科書、裁縫雛形	10月22日～12月23日	
7	美術工芸の諸相	婚礼衣装（白無垢）	11月13日～12月23日	
7	美術工芸の諸相	阪井俊政の刀装具（春／夏）	2月19日～	
7	大阪の美術工芸	近代大阪の彫刻	5月15日～7月8日	
7	大阪の美術工芸	近代大阪の彫刻、漆芸	7月6日～9月2日	
7	大阪の美術工芸	二人の人間国宝	7月10日～9月2日	
7	メディアと流行	ダゲレオタイプカメラと写真	11月27日～3月31日	
7	市場とデパート	大阪高島屋御案内	9月18日～3月31日	
7	都市の民間信仰	土蔵雛形	6月25日～8月31日	
7	都市の民間信仰	大阪の節分行事—変わる民俗、生まれる民俗—	1月29日～3月9日	
7	都市の民間信仰	猫の門の猫、『おもちゃ画譜』第9巻、紙衣堂奉納木槌	3月10日～	
7	家族と家庭	日本現代風俗絵巻「春・夏の巻」「人の一日の巻」	6月25日～8月31日	
7	家族と家庭	映写機	12月24日～5月12日	
7	引札と広告	薩摩琉球物産引札、ドクトリ丸引札	4月28日～7月29日	
7	引札と広告	引札5枚（煙草店、呉服店、米店）入れ替え	7月17日～9月30日	
7	引札と広告	引札5枚（暦）入れ替え	9月24日～12月27日	
7	引札と広告	引札5枚（福助、七福神）	3月22日～6月30日	
7	鴻池家の生活用具	電気蛍籠	7月2日～8月31日	
7	鴻池家の生活用具	秋草七宝電気スタンド、鶴之卵盃	8月26日～10月30日	
7	鴻池家の生活用具	鴻池コレクション・紋付丸火鉢	10月1日～12月27日	
7	鴻池家の生活用具	孔雀型置時計	11月7日～3月31日	
7	鴻池家の生活用具	松唐草文蒔絵丸火鉢	12月27日～2月12日	
7	鴻池家の生活用具	鴻池幸方が見ていた景色（幻灯機、幻灯機種板）	2月12日～5月12日	
7	特設コーナー	紙蛇・紙やもり	7月12日～1月27日	
1	ポスター展	大阪市内発掘調査ダイジェスト	9月4日～1月18日	
1	ポスター展	豊臣大坂城本丸の最新成果	1月19日～3月31日	
1	ポスター展	表紙で振り返る『葦火』展	2月26日～3月24日	

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●再発見！秀吉の大坂城一金箔瓦と家紋瓦―

会 期：令和6年 3月6日～5月6日

出 品 数：175点

担 当：豆谷浩之・岡本 健

共 催：（一財）大阪市文化財協会

大坂城は、秀吉政権の考え方や仕組みを見事に体現した城であった。城内やその周辺には秀吉に従う全国の武士たちの屋敷が建ち並び、豪華な瓦や高い石垣は見る者を威圧した。屋根を美しく見せる瓦は、秀吉の城づくりに欠かせないものであったのである。本展では「金箔瓦」と「家紋瓦」に代表される豊臣期の瓦を展示し、よく知られているようで実はあまり知られていない秀吉の大坂城の姿を再発見した。

●―わたしが難波橋のライオン像をつくりました！―

なにわの彫刻家・天岡均一没後100年記念展

会 期：令和6年5月8日～7月8日

出 品 数：251点

担 当：北上真生

共 催：三田市郷土先哲顕彰会・三田市

後 援：神戸新聞社

難波橋のライオン像の制作者として知られる彫刻家・天岡均一（1875～1924）の没後100年にあたることから、これまで注目されることが少なかった天岡に焦点をあて、希少な作品を一堂に展示した。

とくに、これまで知られていなかった均一の陶芸家・俳人・俳画家としての側面について新発見資料を通して紹介し、美術・工芸家としての全容を明らかにした。

また、均一の妻・露香も近代大阪における女性工芸家の先駆けとして多数の作品をのこしていることから、今日に遺存する作品から露香の工芸活動の足跡を繙いた。

◇関連行事

- ・～プレミアム歴史散歩～なにわの彫刻家・天岡均一のふるさと三田へGO!! 5月11日
- ・ギャラリートーク 5月19日、6月8日

●新収品お披露目展

会 期：令和6年7月10日～9月2日

出 品 数：33件

担 当：谷口正樹

大阪歴史博物館では開館以来、大阪を中心とする地域の歴史と文化を広く市民に紹介し、理解を深めてもらうことを事業運営の基本方針としている。この基本方針に沿った資料の収集は博物館活動の根幹でもあり、当館では毎年、市民から寄贈を受けたさまざまな資料を保管し、研究や展示等に活用している。本展では、令和4年度、令和5年度に新たに館藏品となった寄贈品から未公開のものを中心に、約20件を紹介した。

主な展示資料は、石原ビルディングエレベータ表示板（石原実氏寄贈）、山県有朋書簡（林市蔵宛、林勲男氏寄贈）など。

●新発見！なにわの考古学2024

会 期：令和6年9月4日～10月28日

出 品 数：421点

担 当：寺井 誠

共 催：（一財）大阪市文化財協会

令和5年度を中心に一般財団法人 大阪市文化財協会・大

阪市教育委員会が実施した大阪市内の遺跡発掘調査の中から、主な調査成果を出土遺物や写真パネルで紹介した。主な資料として、極めて残存状況のよい古墳時代後期の大足（平野区亀井北遺跡）、大坂夏の陣にかかわる鉄砲玉と鉛インゴット（中央区大坂城跡）、近世大坂の経済を支えた蔵屋敷からの出土資料（北区中之島蔵屋敷跡）などがあり、弥生時代から近代に至る興味深い成果を展示することができた。なお、「新発見！なにわの考古学」は2002年度から大阪市文化財協会とともに企画・展示を行ってきたが、2024年度末の同協会解散により、最後の共催となった。

◇関連行事

- ・「大阪の歴史を掘る2024」講演会 9月21日
- ・展示解説 9月7・28日、10月26日

●心斎橋ときもの一小大丸260年のあゆみ―

会 期：令和6年10月30日～12月23日

出 品 数：43件56点

担 当：中野朋子

協 力：株式会社 小大丸、株式会社 小大丸ビル

大阪の中心市街のひとつである心斎橋は近年賑やかさを増している。他方で、天明5年（1785）から心斎橋で営業し、大阪のきもの文化を牽引し続けてきた老舗呉服商のひとつであった小大丸が令和6年3月にその歴史に幕を下ろしたこともまた事実である。現在、大阪のきもの文化はまさしく劃期を迎えているといえる。そこで本展では、呉服商・小大丸のあゆみを振り返ることで、心斎橋の歴史と大阪のきもの文化のこれまでとこれからにいまいちど目を向けていただく機会とした。

◇関連行事

- ・展示解説 11月2日
- ・ミニ講座と座談会「一観て 聴いて 考える― 心斎橋ときもの これまでとこれから」 11月24日

●稲作民俗事始め―米をつくる技術、米がつくる文化―

会 期：令和6年12月25日～令和7年2月17日

出 品 数：67件

担 当：俵 和馬

民俗学は、その黎明期から日本人にとって重要な生業であった稲作に高い関心を寄せてきたが、信仰面を取りあげることがほとんどであり、技術面に関しては民具学が担うという二層化がみられた。近年、生業分野の研究では、これらの視点を総合的に扱い、生活実態そのものを照射することが求められている。本展示では、以上の研究動向にのっとり、農具を中心とした技術伝承や農耕儀礼、穀霊信仰に関わる資料をあえて選り分けず、人びとがどのように稲作を営み、これに向き合ってきたのかということについて展示した。

◇関連行事

- ・展示解説 1月13・25日、2月15日
- ・ミニ講座「初春の利酒会」（大阪府酒造組合との共催） 1月18日

●泉布観―大阪最古の洋風建築―

会 期：令和7年2月19日～4月14日

出 品 数：30件

担 当：阿部文和

泉布観は、明治4年（1871）に造幣局の応接所として建設された、現存する大阪最古の洋風建築である。そして大阪行幸で訪れた明治天皇により「泉布観」と命名されると、明治時代を通じて皇族や国内外の要人を迎えるなど、大阪の迎賓館として活用されてきた。

本展では、絵画資料や建築部材、明治天皇行幸関係資料などを展示し、造幣局の建設経緯や泉布観が歩んできた歴史を紹介した。また、通常非公開である泉布観内部のようすを理解してもらうため、往時の姿を再現した映像「近代大阪の迎賓館 泉布観」(令和5年度大阪市経済戦略局制作、大阪歴史博物館監修)を展示室で初公開した。

特別展

●難波宮発掘開始70周年記念 大化改新の地、難波宮 —古代日本のターニングポイント—

会 期：令和6年7月5日～8月26日

開館日数：47日

入場者数：14,671人

出 品 数：104件 (341点)

図 録：A4版、88頁

担 当：安岡早穂、俵 和馬、李 陽浩、
松本百合子

主 催：大阪歴史博物館、
(一財)大阪市文化財協会

後 援：NHK大阪放送局、(公財)大阪観光局

山根徳太郎博士の主導によって始まった昭和29年(1954)2月20日の難波宮跡の第1次発掘調査から数え、令和6年(2024)は70年の節目の年にあたる。本展は、これを記念してあらためて難波宮とそのゆかりの「大化改新」にスポットを当てた特別展である。孝徳天皇によって大阪(難波)の地に新たに造営された難波宮は、誰もが知る古代日本の大きな政治改革「大化改新」の舞台であり、左右対称に設計された中枢部と正方位の区画や、広々とした朝堂院といった新機軸のつくりが導入された改革の結晶であった。展示では、70年にわたる難波宮の発掘調査成果を中心に、難波宮造営前の上町台地の自然環境や土地利用、飛鳥の地で起こった乙巳の変のエピソードなどを紹介し、絵画資料や伝承をまじえながら、古代の国づくりにおける一つの画期を様々な角度で描いた。

◇おもな展示作品

- 難波宮跡出土素弁八葉蓮華文軒丸瓦 7世紀前半 大阪市教育委員会蔵
- 難波宮跡出土祭祀関連遺物 7世紀半ば 大阪市教育委員会蔵
- 大坂城跡出土絵馬 7世紀半ば 大阪府教育委員会蔵
- 藤原宮跡採集複弁八葉蓮華文軒丸瓦 8世紀 大阪歴史博物館蔵

◇関連行事

- 講演会・シンポジウム「古代難波のランドマーク—難波宮と四天王寺」 7月13日
- 「なにわの日」講演会 7月28日
- ガイドツアー・スライドトーク「難波宮を巡る@大阪歴史博物館」 7月20日、8月4日
- スライドトーク「645年：特別展への招待」 7月20日、8月4日

●川瀬巴水 旅と郷愁の風景

会 期：令和6年10月5日～12月2日

開館日数：51日

入場者数：29,161人

出 品 数：173点

図 録：A4版、260頁(ステップ・イースト発行)

担 当：澤井浩一、岩佐伸一、猪岡叶英、奥本未世



主 催：大阪歴史博物館、読売新聞社

共 催：NHKエンタープライズ近畿

後 援：(公財)大阪観光局、NHK大阪放送局

特別協力：渡邊木版美術画舗

資料提供：大田区立郷土博物館

企画協力：ステップ・イースト

大正から昭和にかけて活躍した木版画家・川瀬巴水(1883～1957〔明治16～昭和32〕)。近代化の波が押し寄せ、街や風景がめまぐるしく変貌していく時代に、巴水は日本の原風景を求めて全国を旅し、庶民の生活が息づく四季折々の風景を描いた。巴水とともに木版画制作の道を歩んだのが、新時代の木版画「新版画」を推進した版元の渡邊庄三郎(現・渡邊木版美術画舗初代)や彫師、摺師といった職人たちである。四者は一体となって協業し、伝統技術を継承しながらもより高度な技術の活用を求めた。そして新たな色彩や表現に挑み続け、「新版画」を牽引する存在として人気を博していく。

本展では、季節や天候、時の移ろいを豊かに表現し「旅情詩人」とも呼ばれた川瀬巴水の木版画家としての生涯を、初期から晩年までの代表的な作品とともに紹介した。まとめて観る機会の少ない連作(シリーズ)も含め173点を展示し、叙情的な巴水の世界への誘いとした。

展示構成は下記の通りである。

- 〈第1章〉版画家・巴水、ふるさと東京と旅みやげ
- 〈第2章〉「旅情詩人」巴水、名声の確立とスランプ
- 〈第3章〉巴水、新境地を開拓、円熟期へ

◇おもな展示作品

- 《木場の夕暮》 東京十二題 大正9年(1920) 秋
 - 《月嶋の渡舟場》 東京十二ヶ月 大正10年(1921) 10月
 - 《芝増上寺》 東京二十景 大正14年(1925)
 - 《馬込の月》 東京二十景 昭和5年(1930)
 - 《大坂右衛門町の夕》 日本風景集Ⅱ 関西篇 昭和8年(1933) 4月
 - 《大坂道頓堀の朝》 日本風景集Ⅱ 関西篇 昭和8年(1933) 4月
 - 《“The Japan Trade Monthly”表紙(No.68)》 The Japan Trade Monthly 昭和25年(1950)
 - 《西伊豆木負》 昭和12年(1937) 6月
- ※いずれも版元・渡邊木版美術画舗蔵

特別企画展

●おおさか街あるき—キタ・ミナミ—

会 期：令和6年4月19日～6月3日

開館日数：40日

入場者数：33,206人

出 品 数：118件 (173点)

担 当：阿部文和、島崎未央、
李 陽浩

主 催：大阪歴史博物館

後 援：(公財)大阪観光局

本展示会は、大阪を代表する繁華街として有名なキタとミナミをテーマに、具体的な街あるきのルートを示しながら、そこにまつわる歴史・芸能・建築などの館蔵資料を通して、街の変化と魅力を探ることを目的としたものである。博物館の中に居ながら、あたかも街あるきをするような、そんな新しいオオサカとの出会いの機会となることを意図した。街あるきと展示場を結びつけるための工夫として、実際の街あるきルートに従って観覧ルートを設定し、途中で街の日常風景を映した大型写真パネルを設置するなど、街との繋がりを意識した。また大阪の地理に詳しくない観覧者や、これから街あるきを体験したい人々への一助となるよう、展示室だけ



ではなく、現地での街あるきに活用できる手持ちの地図を用意した。

展示の序章として、「キタ」・「ミナミ」のはじまりについて触れ、地図を用いて概観を示した。キタのルートは中之島からスタートし、現在の北新地界隈を経由して大阪駅前に至る。ルートの途中には北の大火や近松門左衛門など、キタの形成に関わる事件や人物にも言及した。ミナミのルートは現在の高津神社を出発点とし、道頓堀や千日前を経由して南海なんば駅前に至る。道頓堀の開発と芝居興行の発展、かつて刑場や墓所の広がる異界であった千日前の姿を解説した。そして最後に、難波宮や大阪城など大阪歴史博物館近隣の史跡と関連する資料を紹介し、展示室から街あるきへの興味を喚起する展示構成とした。

◇おもな展示作品

- ・[大阪市指定文化財] 佐賀藩蔵屋敷絵図 元禄5年(1692) 日本生命保険相互会社蔵
- ・[大阪市指定文化財] 安井家由緒書 寛文10年(1670) 大阪歴史博物館蔵
- ・阪急百貨店旧大阪うめだ本店外装タイル 昭和4年(1929)・昭和7年(1932) 大阪歴史博物館蔵
- ・浪華の花櫓 江戸時代 大阪歴史博物館蔵
- ・道頓堀中座壁片 昭和22年(1947) 大阪歴史博物館蔵

◇関連行事

- ・現地で街あるき(学芸員による見学ツアー)
【キタ編】4月26日、5月12日
【ミナミ編】5月10・26日
- ・展示室で街あるき(学芸員による展示解説) 5月4・18日

●発掘！大名たちの蔵屋敷

—「天下の台所」に集う米・物・人—

会 期：令和7年1月11日～3月3日

開館日数：45日

入場者数：38,392人

出 品 数：448点

担 当：杉本厚典、豆谷浩之、
松本百合子

主 催：大阪歴史博物館、
(一財)大阪市文化財協会



本展示会は大阪市文化財協会が行ってきた蔵屋敷の発掘調査成果と大阪歴史博物館のもつ蔵屋敷関連の史料と合わせることで、遺跡の重要性や魅力を伝えることを目的として実施した。

展示の冒頭に、教科書によく用いられる「摂津名所図会」「蔵屋敷」と天下の台所大坂の賑わいを活写した錦絵「菱垣新綿番船川口出帆之図」を展示することで、蔵屋敷の世界への導入とした。そして堂島窯の模型、明暦元年大坂三郷町絵図といった大型品などを紹介しながら、中之島の開発と初期の蔵屋敷といった歴史的なテーマへとつなげた。2章では藩の象徴、家紋瓦をアイコンとして用いながら、蔵屋敷の絵図と蔵屋敷で見つかった遺構の大型写真パネルを対比させ、蔵屋敷の建物や船入、敷地の様子・変遷を示した。3章では荷札木簡や米切手、歌川広重の「堂島米あきない」等を展示することで蔵屋敷と米市場の関係や経済的なしくみについて触れ、4章において豊富な考古資料をもとにして、蔵屋敷における生活や交流の実態を描き出した。最後に幕末から明治期にかけての蔵屋敷の土地利用の変転を示すことで、蔵屋敷が「天下の台所」から知識・技術の集積地へと移り変わったことを紹介し、展示をしめくくった。

期間中、展示解説となるスライドトーク、各蔵屋敷の発掘を担当した学芸員による講演会によって蔵屋敷の世界を掘り

下げ、また現地を歩くことで、蔵屋敷の広がりや配置を体感し、都市に埋もれる文化財のあり方について考えるきっかけとした。また、会場で配布するリーフレットと同時に、発掘成果をビジュアルかつ簡便にまとめた『大坂蔵屋敷を掘る』を製作・販売し、展示期間中に完売した。

◇おもな展示資料

- ・[大阪市指定文化財] 佐賀藩大坂蔵屋敷絵図 元禄5年(1692) 日本生命保険相互会社蔵
- ・享保度朝鮮通信使上判事第一船図 辛基秀コレクション 大阪歴史博物館蔵
- ・佐賀藩・徳島藩・高松藩蔵屋敷の瓦 佐賀藩蔵屋敷跡・中之島蔵屋敷跡 大阪市教育委員会蔵
- ・鍋島 佐賀藩蔵屋敷跡 大阪市教育委員会蔵
- ・三官飴壺 中之島蔵屋敷跡他 大阪市教育委員会蔵
- ・泡盛の容器 中之島蔵屋敷跡 大阪市教育委員会蔵
- ・[大阪市指定文化財] 川口遊里図屏風 大阪歴史博物館蔵

◇関連イベント

- ・講演会「蔵屋敷を掘る」(その1) 1月25日
- ・講演会「蔵屋敷を掘る」(その2) 2月15日
- ・考古学散歩「蔵屋敷を歩く」 1月18日、2月1日
- ・スライドトーク「発掘！大名たちの蔵屋敷展、ここが見どころ！」 1月11日、2月11日、2月22日

資料収集

令和6年度は、寄贈によって新たに337件489点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの資料収集にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●令和6年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	311	0	0	311
美術	152	0	0	152
考古	0	0	0	0
民俗	21	0	0	21
芸能	3	0	0	3
建築	2	0	0	2
	489	0	0	489

●館蔵品総点数(令和7年3月31日現在)

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	83,645	9,143	86	92,874
美術	9,474	1,648	3	11,125
考古	7,235	4,765	6,178	18,178
民俗	4,938	2,485	2	7,425
芸能	11,725	1,029	3	12,757
建築	6,299	0	27	6,326
	123,316	19,070	6,299	148,685

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を6月、12月の計2回実施した。また、7～8月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物(歩行・飛翔虫)の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

●新収蔵資料紹介

うめ し だ もん まき え きげじゅう

梅に羊歯文蒔絵提重

江戸時代後期～大正時代

小岸昌弘氏寄贈

提重は、戸外での宴席に用いる携帯用の重箱で、蒔絵で梅花と羊歯の文様を施し、重箱、銘々皿、脚付膳、酒筒を収めている。梅・羊歯はともに春を寿ぐ瑞祥の草花であり、寄贈者の祖母、もしくはその上の代の者が花見で使用していたものという。花見の源流はハルゴト（田植え前にサクラを囲み供食する年中行事）であり、当時の花見のあり方を今に伝えるものともいえる。



新収蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇河崎晋也氏寄贈資料

軍服	1点
女学生制服	1点
略帽	1点
軍隊手帳	1点
大谷女学校卒業アルバム	1点
偕行社アルバム	1点

◇高津豊氏寄贈資料

構名之事	1点
採燈護摩供	1点
〔書状〕（御附弟宮御方御入室御得度につき祝儀取立て）	1点
諸法次第	1点
〔摂河泉御直講取締免許状〕	1点
自身引導作法	1点
金剛供次第・採燈供次第	1点
〔包紙〕（大坂金剛院歎道）	1点
〔免許状〕（高安院の称号と桃地結袈裟につき）	1点
〔記〕（能書家名）	1点
〔書状〕（王政復古につき）	1点
〔書付〕（年竹ノ法）	1点
〔書付〕（地神…）	1点
〔書状〕（金剛院御房入峯の費用・献上金につき）	1点
〔書状〕（金剛院入峯の御通り料受取）	1点
〔書状〕（金剛院休峯につき）	1点
〔山本家系図〕	5点
奉修不動尊護摩供事（和泉屋幸七家内につき）	1点
〔包紙〕（達書）	1点
差入申一札之事（倅大宝院二代直太郎貴殿方へ養子入二付金15両の受取り）	1点
差入申一札之事（奉公人辰之助儀、暫く名前人に御貸し申上げ）	1点
差入申一札之事（倅直太郎相続人不通につき離縁）	1点
差入申一札（倅直太郎養子に差遣わすにつき）	1点
差入申一札之事（倅直太郎引取御世話下さるにつき）	1点
奉修不動明王初行護摩供二十一箇度家内安全如意祈攸	1点
標目（平安城本山道場において御授法）	1点
〔刷物絵〕（御津宮）	1点
聖護院宮御直末院金剛院組帳（山伏仕置・三カ条証文の写し）	1点
覚（金15両中7両の受取）	1点
金子預ヶ札（金5両預かりにつき）	1点
差入申一札之事（直太郎引取御世話下さるにつき）	1点
〔包紙〕	1点
〔包紙〕	1点
〔包紙〕	1点
〔記〕（申渡書付）	1点
申渡（今度願の通り御召入につき）	1点
覚（宿駕籠一挺人足二人の継立につき）	1点
〔包紙〕（先触）	1点
乍恐奉願上候（富士山出開帳の寄付物集め方につき）	1点
〔補任状〕（御直末院大坂金剛院住持職に補す）	1点
奉願口上書（高祖堂御講中加入願いのひな型）	1点
〔免許状〕（十八契印護摩秘法につき）	1点
普門品 発願文	1点
結印十指図	1点
三時勤行次第	1点
手洗家形拾分壺図	1点
〔記〕（歎道の花押カ）	1点

〔達〕（願いにより御門主御染毫の仏号を寄附せらる）	1点	〔書状〕（砂糖漬、御直講書状取次の礼、富士開帳の事情につき）	1点
〔記〕（行列書）	1点	〔書状〕（金剛院改名につき、	
乗込（供廻り一覧）	1点	14日の奉行所への届け出と御殿からの廻達の段取り）	1点
〔記〕（御供頭壱人…）	1点	〔書状〕（伝奏御廻達につき、奉行所から差紙がきたら	
〔記〕（非蔵人・楽所への馳走）	1点	年行事職の修験付き添いで出勤すること、次第は御	
〔書状〕（御沙汰につき上京命令）	1点	申登のこと）	1点
〔記〕（御休所につき）	1点	起生餘論	1点
〔書状〕（道中御差支につき延引の報せ）	1点	〔達〕（御附弟宮御方御入室御得度、信仁親王と	
〔記〕（七日御復〔いとへんに布〕被仰出…）	1点	称さるにつき、両三年中に参洛し御祝儀を出すこと）	1点
〔免許状〕（等覚坊と称すべし）	1点	〔達〕（別紙の通り禁廷より仰せ出しにつき）	1点
大峯山奥道諸堂社御修復募縁之序	2点	〔記〕（「シウユウ…」）	1点
皇族家紋雛型之通被定候事（他布告写し）	3点	〔届書下書〕（聖護院宮御内金剛院、南瓦屋町	
〔記〕（牝鶏告時刻国家亡）	1点	高津屋安之助方同居の組入り届け出の下書き）	1点
〔記〕（森御殿において御門跡様大護摩御執行につき）	1点	（寒中見舞いの礼と御申越しの品送付につき、	
〔大峯山奥道諸堂社御修復募縁之序〕	7点	弥吉がいくので宜しく）	1点
〔届書〕（御祈祷本尊の御影札広めにつき）	1点	〔記〕（「ダイゴンジントイフハ…」）	1点
大坂三郷山上講御請書写シ	1点	〔記〕（「ヤチャチャヌ…」）	1点
〔免許状〕（辰昇院の称号と桃地結袈裟につき）	1点	〔記〕（富島壱丁目大和屋幸三郎他18か所の講の書上げ）	1点
〔書状〕（御附弟宮御方御入室御得度につき祝儀取立て）	1点	天神経	1点
聖護院宮御直年行事金剛院組帳（山伏仕置・三カ条証文の写し）	1点	〔記〕（正月七日 一、金三両 明星院）	1点
奉祈願（天龍山惣講中・檀家・施主の家内安全等）	2点	〔達〕（本山修験の専務職掌につき心得）	1点
譲一札之事（大寶院寺務致来候処、貴殿へ譲り、		奉納 般若心経卷	1点
助成として金五両受取）	1点	邪気等加持作法	1点
〔記〕（国毎の宗派、組頭の書上げ）	1点	〔書状〕（来る15日恒例の通り御札につき、昼後参上のこと）	1点
此名前之者自筆ニ而認調印と相見え候（三郷や堺の講中書上げ）	1点	〔書状〕（当領分にて護摩御修行願いの儀につき）	1点
大峯奥通道筋	1点	〔書状〕（来る正月十五日御直講年頭御礼日につき、	
〔綴じ外れ〕「森御殿御役所㊦、勸入方御用所㊦」	1点	守本講に伝達依頼）	1点
〔書状〕（信仁親王御入室御得度につき参洛申渡し）	1点	〔書状〕（御撫物守護止宿につき）	1点
〔通達〕（御葬送供奉につき一峯之度数を加増）	1点	〔書状〕（施主護摩願いにつき札を百枚送付）	1点
証（鎧一筋を父故左兵衛大尉源宗恒の遺言につき贈与）	1点	覚（御札入用銀17匁8厘）	1点
講名之事（大護摩講と称すべし）	1点	〔書状〕（代金1歩の受取、森神変會御願につき	
護摩講御趣意書（諸堂社御破損御修復）	1点	六十枚差し下しのこと）	1点
覚（入用を来る20日までに御持参ください）	1点	〔書状〕（八朔礼金百疋の受取、御撫物止宿につき、	
水天供（經典の念誦法）	1点	園城寺先達宛別封を堺問屋場へ御遣しください、	
〔朱印〕（天皇陵・寺社等の朱印）	24点	能勢郡取締につき）	1点
長家連名（計15件の書上げ）	1点	〔書状〕（十四日の書状拝見、別紙申し立ての	
〔包紙〕（折りたたんだ和紙）	1点	講名院号許状二通につき、廿日に上京なさるべし）	1点
〔寄霜懷旧三十六首〕（商山居士の追善供）	1点	〔書状〕（山縣大膳助の儀御聞済みにつき、講元院号	
覚（年頭御札録50疋）	1点	御免状二通、幟等送付）	1点
諸法（採燈大護摩供次第）	1点	〔書状〕（蔵人逗留中の礼、釈迦講御聞き済みにつき、	
〔書状〕（御撫物御宿につき、		明寅年年頭御達しにつき）	1点
御息馬之助殿継目御札録につき、嶋下郡霞地につき）	1点	〔書状〕（伏見入道宮様末男泰宮御附弟内約につき、	
〔書状〕（奉行所付添は理正院に頼むこと、		入寺入用調達のため、講開催の案内）	1点
浅黄総結袈裟は出来次第送ること）	1点	〔書状〕（泰宮禁裏御所養子の上御附弟のため、	
〔書状〕（明正月十五日恒例の御直講御札の伝達につき、		別当典侍殿へ御母仰せ出さるにつき、御祝詞	
金剛院御房年頭御参殿のため12日に上京されたし）	1点	を申上げるべし）	1点
〔書状〕（加行日縮めにつき）	1点	〔書状〕（先月御撫物守護園城寺が御用所に	
〔書状〕（萬宝院跡御届振につき、上京いただき確認したく）	1点	宿泊した際の宿賃につき問い合わせ）	1点
〔書状〕（御直講金剛院御免状願いと御札録金五百疋を		書添（別紙2通を夫々へ御通達下さい、御撫物止宿の	
落手。願人山縣大膳助の職業、宗旨を調べお知らせ		人数は上下4人と御心得下さい、園城寺止宿の際、	
ください。尚山本主税への手紙は渡した旨）	1点	能勢郡取締については話さないで下さい）	1点
〔書状〕（奉行所への届けの運びにつき、		〔書状〕（春嶺修行につき、11日、御撫物守護岩本坊を	
御直講献物送付の礼）	1点	御用所に止宿させるため、ご用意ください）	1点
〔書状〕（金剛院奉行所表届け方につき）	1点	〔書状〕（2/29付書状拝見、日本屋太郎兵衛継目願書に	
〔書状〕（大峯奥諸堂社修復手当講催しにつき、		つき、過日ご要望の幟差し下しにつき）	1点
講仕法の作成依頼、御用所になる借屋の収益		〔書状〕（尼崎の田中金兵衛が大坂法中での	
見込みにつき尋ね）	1点	護摩修行開催を願ひ来るにつき）	1点
〔書状〕（願の通り御家来の儀御聞き済みにつき、		〔書状〕（御用所近辺の御用につき、上京なさるべし、	
来る10日巳ノ刻御対面のこと）	1点	先日お尋ねの御子息継ぎ目、大学院の儀につき）	1点
〔達書下書〕（南瓦屋町仲之町へ森御殿御用所取立てにつき）	1点	〔書状〕（天王寺の壇護摩は帰依次第につき伺いには	

及ばないこと、日本屋太郎兵衛の御免状送付につき、御渡しください、講内に免状願いと祝儀の納入を勧めて下さい)	1点	〔書状〕(故宮御百箇は御斎のところ、香典献備の方に干湯葉一包ずつ下されたので、別紙の通りお配り下さい。)	1点
〔書状写し〕(西川屋藤七の家明・妙見堂の争論につき)	3点	御直講願御礼録(組としての献上、幟御免、講名御礼につき。)	1点
〔書状〕(四天王寺秋之坊境内での採燈護摩修行は差し止めのこと)	1点	〔書状〕(19日奉行所への届け出の旨、披露済み、印鑑・提燈のこと、頼母子講仕法書のことなど)	1点
廻文(京都から御出役があり、御挨拶申し上げたく、生玉東里庵へお越しください)	1点	〔達〕(講内一組より年頭御礼参上の際献上御礼録の心得)	1点
〔書状〕(御直講結縁免状三通の御申出につき、御礼金三百疋受取、免状三通送付)	1点	〔書状〕(大護摩講西宮樽屋恒次郎御免状につき。)	1点
〔記〕(上納、出役上下雑費出役料、御入用賃、講元徳金など、金子の用途割合につき)	1点	〔免許状〕(森御殿境内高祖堂講中に加えめさるにより、葉菊螺紋紋付幟免許のこと)	1点
〔書状〕(年頭祝儀の受取、免状一通・金剛院同行補任状三通の御申出承知、在坂願いの対応につき)	1点	〔書状〕(新宮様親王宣下・御入室御得度の御太礼につき、上京のうえ恐悦申上げるべきこと)	1点
〔書状〕(当嶺修行につき、喜蔵院附弟完運房が御撫物守護参勤同道につき、下宿手配の依頼)	1点	〔記〕(天子ほか死去の際の表現)	1点
〔書状〕(金剛院弟子取立の御免状三通御申出につき、御礼録式百疋の受取、免状三通の送付。)	1点	奉願上口上書(御直年行事職昇進願い、大学院跡・震地配下の附属願い)	1点
〔書状〕(来る寅年正月十五日恒例の通り御礼仰せ出しにつき、献上物持参で昼後参上のこと)	1点	大坂最寄御直講頭(院号・居所・幟の番組の書上げ)	1点
〔書状〕(来る寅年正月十五日恒例の通り御礼仰せ出しにつき、献上物持参で昼後参上のこと)	1点	乍恐奉願上口上書(加行願い)	1点
〔書状〕(過日の菓子の礼、大護摩講中院号御補任状二通の御申出と御礼録式百疋の受取につき、御補任二通送付)	1点	〔書状〕(摂州嶋下郡任頂寺村持山の鎮守龍堂社につき、金剛院が奉行所に願ひ出るので、宜しく)	1点
〔書状〕(中元の礼、俗御補任一通御申出と御礼金百疋受取につき、補任一通送付)	1点	〔記〕(綾地以下免許内容ごとの礼金額書上げ)	1点
〔書状〕(当嶺修行につき、宮内省より御撫物年番院家住信院僧正をご指名につき、修行附属先達・御撫物守護・目付の下宿手配を依頼)	1点	〔書状〕(大宮様先々月以來段々容体悪化につき、早々御登京ください)	1点
〔書状〕(前鬼不動参詣の仕法や入用につき)	1点	〔記〕(聖護院宮嘉言親王、照高院宮智成親王の維新後の経緯につき)	1点
二白(もし参詣ついでに上京する者がいれば必ず御申し越してください)	1点	〔書状〕(宮御方の元服・叙品で取り込みだったこと、御用所詰の義、弁事官へ届け済みにつき)	1点
〔書状〕(森高祖堂引建寄附帳二冊の受取)	1点	〔書状〕(御礼録受取。旧冬用の役所詰願いにつき。)	1点
〔書状〕(森高祖堂御引建出来、来る24日御遷座につき、講中の内上京の者がいれば参詣するようご廻達ください)	1点	〔願書控〕(諸家蔵屋敷同様用役所詰め願い)	1点
〔書状〕(御直講中院号・坊号願書、補任料二百疋の受取。)	1点	年頭御礼録本式	1点
〔書状〕(斧講講元河州新家村今西助三郎が高祖堂井戸屋敷建立のため献木願いにつき)	1点	口上覚(当門修験摂河播取締を御用所に申しつけられた旨、大坂町奉行から組頭修験に御口達下されたく)	1点
〔達〕(大坂金剛院就学のため参籠につき)	1点	口上覚(当門修験摂河泉播取締を御用所に申しつけられた旨、大坂町奉行から組頭修験に御口達下されたく)	1点
〔書状〕(金剛院御房弟子同行取立補任状三通御頼み、御礼録の受取。三通送付。)	1点	木蘭色衣浅黄総本式御礼	1点
〔書状〕(別紙御用状を急ぎ高野飛脚でご送付ください)	1点	奉願上口上書(河州岡山村赤山の六月会式に護摩修行願いたく)	1点
〔書状〕(3/18付書状拝見。講名院号御免状、御礼録金の受取手形送付。)	1点	〔記〕(採燈護摩修行は高祖様霊場と由緒厚き寺社のほか御差し支えのこと)	1点
〔書状〕(来る15日は年頭御礼につき廻達依頼。旧冬申入れの宿所御届けの件につき、上京の際伺いたく)	1点	乍恐願上候口上(住職仰せ下されにつき浅黄総結袈裟免許願い)	1点
〔書状〕(過日ご上京の節頂戴米の売却代金と貸しを差引き金15両3朱の送付)	1点	別語(御殿の廻達日から大坂町奉行に届くまで日数がかかること)	1点
〔達〕(釈迦講中石組へ宮様御染筆表具下さるにつき、来る2/10御役所へ罷り出ること)	1点	口達(大峯奥諸堂社修復のため配札役人巡行につき、信心の輩は奉納と記帳のこと)	1点
〔書状〕(今般別紙の通り仰せいだされたので、御順達ください。これまでお下置の提灯類を返却し、諸講へも御殿号を使わぬよう御達しください)	1点	〔書状〕(御直講院号幟頼書御聞き済みにつき、免状・幟の送付)	1点
〔記〕(仏像、仏具等書上げ)	1点	覚(松木、五穀など書き上げ)	1点
〔書状〕(新講神言出役料金二両の受取り)	1点	〔書状〕(歛道房義、加行護摩無事終了につき)	1点
二白(寒中伺いの菓子の礼。別封を最寄取次飛脚へ御達しください)	1点	〔記〕(先達以下、職階につき)	1点
〔記〕(奥道諸堂社修復のため喜捨を募る)	1点	〔書状〕(修験上京御供の人数、年行事の供廻り人数などお報せください)	1点
		覚(素襖惣紋衣代等金3両落手のこと)	1点
		〔書状〕(南瓦屋町御用所での取計いにつき相談があるため、御上京ください)	1点
		〔書状〕(暑中見舞いの礼、摂津での採燈大護摩に備え、授戒の提案)	1点
		御直同行御取立御礼録	1点
		三日之入檀(道砂ほか賃金、礼金書上げ)	1点
		〔書状〕(仕法講の仕様帳につき承知、森嘉兵衛他一人免状差し下し)	1点
		〔書状〕(書状延着のため、新講の初会に役人無出役となり不都合につき)	1点
		〔書状〕(大坂表御貸付御輕捐につき)	1点

〔書状〕（御直講講名・坊号・院号・桃地四通補任状お申し出につき）	1点	〔免状〕（木蘭色衣着用につき）	1点
〔書状〕（講取組につき、初会無出役では差支えるため、開催日限を決めてお報せください）	1点	〔免状〕（浅黄総結袈裟着用につき）	1点
〔書状〕（過日の上京・逗留の労いと、岩本坊に書状を渡すよう依頼）	1点	〔免状〕（権律師任命につき）	1点
〔書状〕（大護摩講内より院号・桃地免状願につき、伊丹教授院の不如法につき）	1点	〔免状〕（法橋に叙す）	1点
〔書状〕（御用所高津屋安之助の講名・院号願につき、摂河泉惣講元願につき）	1点	〔免状〕（法眼に叙す）	1点
〔書状〕（中元の礼、金剛院修行駈入につき）	1点	定（大峯奥諸堂社修復助成につき）	1点
〔書状〕（年始の挨拶、扇子料の礼）	1点	〔免状〕（権少僧都任命につき）	1点
〔書状〕（追啓 野田左衛門に一封御達しく下さい）	1点	〔免状〕（高槻領を除く摂州嶋下郡年行事職につき）	1点
〔書状〕（御殿御印提燈につき、胡乱のものは御用所で取り上げるよう）	1点	諸尊法	1点
〔書状〕（河州讃良郡岡山村東行者山での護摩修行願につき）	1点	加行式法	1点
〔書状〕（天保山での大護摩修行願につき）	1点	十八道加行日折	1点
〔書状〕（来月下旬一品宣下の御内意仰出され候につき）	1点		
〔書状〕（院号・桃地等願の礼録につき）	1点	●美術	
〔書状〕（岡山村護摩修行願、各種願いの礼録につき）	1点	◇個人寄贈資料	
〔書状〕（きたる27日一品宣下、晦日に家来一同祝儀対面につき）	1点	阿保宮図 岡田玉山	1点
〔書状〕（一品宣下祝儀は欠席の旨承知、献物の先例につき）	1点	書画帖 松本泰時ほか	1点
唐崎大明神一ツ松之図	1点	漢詩過道明寺有感 契沖	1点
〔書状〕（父の死去に際する見舞の礼）	1点	一行書横雲 岡田米山人	1点
〔書状〕（補任状未着の問い合わせにつき）	1点	猿図 鎌田巖松	1点
覚（閏月九日着紙包の受取）	1点	山水図 浜田杏堂	1点
〔書状〕（大善院自光坊深山参籠につき）	1点	墨竹図画帖 浜田杏堂	1点
〔書状〕（日掛講加入者の供え物につき）	1点	陶斎先生随筆 趙陶斎	1点
〔書状〕（伊丹杉山講と教授院一件につき）	1点	趙陶斎墨跡 趙陶斎	1点
〔書状〕（富士開帳一件につき）	1点	山水図 田結莊千里	1点
〔書状〕（富士山開帳の奉納銭金20両の処理につき）	1点	陳献章漢詩 田結莊千里	1点
〔書状〕（富士南坊への返書をご伝達ください）	1点	猫児捕鯰図 田結莊千里	1点
覚（富士山書状受取）	1点	十時梅屋書状七月十九日 十時梅屋	1点
〔書状〕（開帳中の宝物紛失につき）	1点	十時梅屋書状食野詮蔵宛臘月望日 十時梅屋	1点
〔書状下書〕（法性院の取り調べ手間取りにつき）	1点	十時梅屋書状食左宛六月十七日 十時梅屋	1点
〔書状〕（二啓。伊丹喜・杵市が上町上堺町鍛冶卯へ書状差し遣わすにつき）	1点	皆川淇園書状食野詮蔵宛四月九日 皆川淇園	1点
証書（開帳参物その他任せの冥加、金30両の受取）	1点	皆川淇園書状食野詮蔵宛十一月五日十二月五日合装 皆川淇園	1点
請取書（開帳の助成金20両の受取）	1点	祇園南海書状田中七三郎宛正月四日 祇園南海	1点
〔書状〕（世話人との内済の手続きにつき）	1点	柳沢淇園書状食野詮蔵宛八月十一日 柳沢淇園	1点
〔書状〕（御殿にて法性院・世話人双方お召しのうえ言上したく）	1点	野呂介石書状俊鳳上人宛三月二十九日 野呂介石	1点
〔書状〕（富士開帳の浅間様御場所引受につき）	1点	伊藤東涯書状芝井玄庵宛閏十二月二十九日 伊藤東涯	1点
〔書状〕（法性院は世話人と相談のためひとまず帰坂）	1点	蘭竹図丙子春日作 五代友厚	1点
〔書状〕（伊丹屋喜兵衛賄損分の再願につき）	1点	蘭竹図 五代友厚	1点
〔書状〕（法性院・嶋屋丈之助が願ひ出た券につき、宜しく御取り計らいください）	1点	一行書冬梅雪裏 三好正慶	1点
〔達〕（富士山開帳につき取締りを命ず）	1点	和歌時鳥 三好正慶	1点
口上覚（富士山開帳終了につき）	1点	和歌長恨歌 三好正慶	1点
達書（先般富士出開帳の際の寄進帳・印鑑を回収）	1点	早春図 三好正慶	1点
〔書状〕（先だって願ひの儀につき相談したく、明日お越しください）	1点	茶杓銘竹花 三好正慶	1点
〔書状〕（にせ勧化につき）	1点	正慶尼像羽子板	1点
〔書状〕（御殿御役所判入りの書付御渡しにつき）	1点	正慶尼図扇面 富岡鉄斎	1点
〔書状〕（稲田氏へ世話人中との談方の結果を伺いたく）	1点		
〔書状〕（先日申し受けた達書を送ります）	1点	◇市田俊介氏寄贈資料	
〔書状〕（御免状送付、富士山世話方よりの金20両納付につき）	1点	宝船図襖紗	1点
富士山開帳一件成行之次第	1点	疋田絞蒲団地	7点
地券（大阪南区瓦屋町四番町21,22番地）	1点		
地券（大阪南区大宝寺町東之町30番地）	1点	◇河崎晋也氏寄贈資料	
		染織見本帳	98点
		雲鶴燕図振袖	1点
		蘭燕図襦袢	1点
		蓬萊図襖紗	2点
		花菱紋襖紗	1点
		扇面図襖紗	1点
		違鷹羽紋襖紗	1点
		波兔図襖紗	1点
		松竹梅図襖紗	1点
		高砂図襖紗	1点

流水片輪車図袱紗	1点
遑鷹羽紋袱紗	1点
宝船図袱紗	1点

◇小岸昌弘氏寄贈資料	
岩に菊図 鶴亭画 五井蘭洲賛	1点
溪山雪霽図 鼎金城筆	1点
松に鵲虎図	1点

●民俗

◇大川尚美氏寄贈資料	
苗字書	1点
名書	1点
旧神官名簿	1点
親心講会計金出帳	1点
施餓鬼帳	1点

◇小岸昌弘氏寄贈資料	
梅に羊歯文堤重	1点
錫製千呂利	2点
九谷焼猪口	9点
八幡太郎義家図	1点

◇林綾子氏寄贈資料	
箱枕	1点
髪結道具一式	1点
百人一首	1点

●芸能

◇塩野テルミ氏寄贈資料	
市松人形 鷺谷瑠璃若	1点
紫綬褒章 賜鷺谷陸平	1点

◇野村維男氏寄贈資料	
SPレコード 大大阪地下鉄行進曲／大大阪地下鉄小唄	1点

●建築

◇河崎晋也氏寄贈資料	
旧河崎家住宅棟札	1点
旧河崎家住宅幣串	1点

館蔵品の修復

令和6年度に修復した資料は次の通りである（4件4点）。

- | | |
|--------|--|
| (1) 名称 | 刀 銘 於鞍馬藤原重次 |
| 数量 | 1点 |
| (2) 名称 | 刀 銘 鈴木加賀守貞則／寛文十二季八月日 |
| 数量 | 1点 |
| 修復概要 | (1) (2) とともに日本刀研磨の伝統的な研磨工程に即し、刀身を極力減らさない部分研磨の方法で錆の除去と仕上げを行なった。また、保存用の新しい白鞘を作成した。 |
| (3) 名称 | 現故漢画名家集鑑（紙本墨摺） |
| 数量 | 1点 |
| 修復概要 | 従前の表装を解き、資料表面の汚れを取り除き、折れ伏せなどを施した上で新たに表装を施した。 |
| (4) 名称 | 御くしあげ 宮本君山筆 |
| 数量 | 1点 |
| 修復概要 | 画帖各面の接続部分における紙の断裂部分を補修した。 |

上記のほかに、将来的な修復を視野に入れて、下記資料の予備的調査を行った。

・御所人形 犬千代丸 1点

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●写真撮影

本年度は26点（美術工芸資料14点、建築資料8点、歴史資料3点、考古資料1点）の館蔵資料について撮影を行った。

●図書の受入（令和7年3月31日現在）

本年度は新たに2,361件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈2,233件、特別観覧献本26件、購入78件、自主刊行物の登録24件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

館蔵資料等の貸出し

令和6年度に他機関の貸出希望を受諾した資料数は下に掲げた表の通りである（12件80点）

	申請者	数	展覧会名称	貸出期間
1	大阪市旭区役所	19	旭区役所常設展示	令和6年4月1日～令和9年3月31日
2	大阪府立近つ飛鳥博物館	3	企画展「四天王寺と古代王権」	令和6年4月3日～6月27日
3	市立伊丹ミュージアム	3	特別展「虫」展	令和6年7月23日～10月4日
4	MIHO MUSEUM	1	特別展「うましうるはし日本の食事（たべごと）」	令和6年9月5日～12月27日
5	和泉市立久保惣記念美術館	4	特別展「遊びのすがた —工芸と絵画で見る玩具の美術—」	令和6年8月21日～12月5日
6	サントリー美術館	1	「没後300年記念 英一蝶 —風流才子、浮き世を写す—」	令和6年8月20日～11月21日
7	神奈川県立金沢文庫	18	特別展「久米田寺」	令和6年9月16日～12月13日
8	（平城京跡管理センター） 平城宮跡いざない館	15	特別展「街中のお役所 —平城京の大学寮・鑄銭司—」	令和6年9月20日～11月27日
9	東京国立博物館	2	特別展「はにわ」	令和6年9月17日～12月24日
10	九州国立博物館	1	特別展「はにわ」	東京国立博物館から引継ぎ ～令和7年5月22日
11	大阪市立科学館	12	企画展「万博で夢見たサイエンス展」	令和6年12月4日～令和7年4月11日
12	海に見える杜美術館	1	特別展「二十四孝図と桃山時代」	令和7年3月4日～5月14日

教育普及事業

講座・見学会

●なにわ歴史講座

- 6月23日 「難波橋・ライオン像の生みの親・天岡均一」 北上真生 86名
- 2月16日 「異界流離譚—信仰・怪異伝承の環境民俗論—」 俵和馬 100名
- 2月23日 「泉布観—大阪最古の洋風建築—」 阿部文和 94名
- 3月16日 「ここまでわかった！大阪の城」 岡本健 106名

●館長講演会

- 3月23日 「よみがえった朝鮮通信使船—その歴史と来航への期待—」 大澤研一 112名

●「なにわの日」講演会（大阪市文化財協会と共催）

- 7月28日 「前期難波宮の源流をさぐる」 積山洋（（一財）大阪市文化財協会 学芸員）「大化改新と天皇」 磐下徹氏（大阪公立大学大学院文学研究科 准教授） 178名

特別観覧

本年度は撮影23件（147点）、実測0件（0点）、閲覧23件（136点）、掲載・掲出120件（355点）、放映13件（27点）、デジタルオンデマンド46件（110点）、その他14件（59点）の計239件（834点）の特別観覧があった。

※（ ）内は資料点数。件数・点数ともに重複を含む。

特別展・特集展示等関連の講演会・展示解説

◇特別展「難波宮発掘開始70周年記念 大化改新の地、難波宮—古代日本のターニングポイント—」

- 講演会・シンポジウム「古代難波のランドマーク—難波宮と四天王寺」
「難波宮跡発掘70年の成果と課題」中尾芳治氏（元帝塚山学院大学教授）、「難波の大寺四天王寺の確立とその背景」谷崎仁美氏（大阪府立近つ飛鳥博物館 学芸員）、「大化改新と難波宮」市大樹氏（大阪大学）
- シンポジウム「ここまでわかった古代難波」 司会 李陽浩 7月13日 190名
- ガイドツアー・スライドトーク「難波宮を巡る@大阪歴史博物館」 7月20日 20名、8月4日 18名
- スライドトーク「645年：特別展への招待」 7月20日 9名、8月4日 17名

◇特別企画展「おおさか街あるき—キタ・ミナミ—」

- おおさか街あるきキタ・ミナミ
現地で街あるきキタ編 4月26日 10名、5月12日 15名
現地で街あるきミナミ編 5月10日 15名、5月26日 15名
展示室で街あるき 5月4日 49名、5月18日 35名

◇特別企画展「発掘！大名たちの蔵屋敷―「天下の台所」に集う米・物・人―

- ・講演会「蔵屋敷を掘る」(その1)
「蔵屋敷の基礎知識」豆谷浩之、「ゴミ穴から探る蔵屋敷のくらし―住人の変遷（松江・今治・津山藩）から」大庭重信（(一財)大阪市文化財協会） 1月25日 118名
- ・講演会「蔵屋敷を掘る」(その2)
「蔵屋敷の蔵と産物―高松藩蔵屋敷の場合」松本百合子、「海の大名―高松藩蔵屋敷跡の発掘調査から」南 秀雄（(一財)大阪市文化財協会） 2月15日 126名
- ・考古学散歩「蔵屋敷を歩く」
1月18日 15名、2月1日 21名
- ・スライドトーク「発掘！大名たちの蔵屋敷展、ここが見どころ！」杉本厚典
1月11日 31名、2月11日 57名、2月22日 37名

◇特集展示「再発見！秀吉の大坂城―金箔瓦と家紋瓦―

- ・展示解説 4月27日 43名

◇特集展示「―わたしが難波橋のライオン像をつくりました!!―なにわの彫刻家・天岡均―没後100年記念展」

- ・～プレミアム歴史散歩～なにわの彫刻家・天岡均―のふろさと三田へGO!! 北上真生、九鬼隆章 氏（三田藩家老職家当主）、生田真 氏（三田天満神社宮司）、児島正龍 氏（心月院住職） 5月11日 8名
- ・展示解説 5月19日 13名、6月8日 11名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2024」

- ・「大阪の歴史を掘る2024」講演会（大阪市文化財協会と共催）
「大阪市内の発掘調査成果―令和5年度を中心に―」南 秀雄（(一財)大阪市文化財協会）、「近世大坂蔵屋敷の果たした経済的役割について」高槻泰郎 氏（神戸大学経済経営研究所 准教授） 9月21日 125名
- ・展示解説 9月7日 8名、9月28日 15名、10月26日 12名

◇特集展示「心斎橋ときもの一小大丸260年のあゆみ―

- ・ミニ講座と座談会「―観て 聴いて 考える― 心斎橋ときもの これまでとこれから」 11月24日 98名
- ・展示解説 11月2日 30名

◇特集展示「稲作民俗事始め―米をつくる技術、米がつくる文化―

- ・展示解説 1月13日 19名、1月25日 15名、2月15日 15名

◇特集展示「泉布観―大阪最古の洋風建築―

- ・展示解説 3月1日 40名、3月15日 40名

“なにわ歴博”わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、ゴールデンウィークや夏休み期間中を中心に実施した。

- ①「ふわふわの綿花からタネを取り出そう！@れきはくコトンプロジェクト」
5月5日 37名、5月6日 44名、3月30日 112名
- ②「～なりきり三英傑～戦国武将のお面を作ろう」
5月5日 26名、5月6日 5名
- ③「考古学者になってみよう 出土したカケラで古代遺跡の謎を解け！」
7月27日 6組15名
- ④「組ひもにチャレンジ！―オンリーワンのプレスレットをつくろう―」
8月11日 13組35名
- ⑤「凧づくりと凧あげ」
2月2日 15組33名

難波宮遺跡探訪

博物館の開館日に14時、15時の2回にわたりボランティアによる解説を実施した。各回定員20名。5世紀の復元倉庫公開は休止中である。

「XR難波宮」

展示場などに設置した二次元コード（QR）を読み取ることで、スマホ・タブレット上に復元された難波宮の建物群を再現できるコンテンツ「XR 難波宮」を、11月3日から公開した（無料）。

ハンズオン

常設展の展示テーマにちなみ、展示物やそのレプリカ等に触れ、体験する事業として、下記を実施した。

- ・むかしの瓦の拓本体験
5月11日 24名、7月13日 28名、9月14日 22名、11月9日 32名、3月8日 25名
- ・両替商体験
4月13日 25名、6月8日 60名、8月10日 100名、10月12日 50名、12月14日 15名、2月8日 30名

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書検索コーナーを用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心にして、「大阪弁っておもしろいなあ」(4/4～5/19)、「読んで知ろう お金の歴史」(5/23～6/30)、「フランス特集」(7/4～8/25)、「歴史をめぐる鉄道旅」(8/29～10/13)、「お茶をたしなむ」(10/17～12/1)、「八百八町江戸めぐり―蔦屋重三郎が生きた時代―」(12/5～2/2)、「EXPO'70の記憶 ―55年目のこんにち―」(2/6～3/23)の7回の特集を企画し、関連書籍を配架した。令和5年度より開室日が木・金・土・日曜日の週4日へ変更となった。入室者数は14,729名、書庫出納件数は126件、複写利用件数は280件であった。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校における進路学習のための職場体験学習等を受け入れている。また、大学からの博物館実習・見学実習の受け入れを行った。

●学校職員の研修の受け入れ

◇大阪市教員研修（主催：大阪市総合教育センター）

8月5日 大阪市立学校園教職員47名

大阪市立の校園に勤務する教員が大阪の歴史・文化への理解を深め、地域学習のための素材を提供するとともに大阪歴史博物館の活動を理解し利用を促進するために、大阪市総合教育センター主催の連携研修を実施した。今回は令和5年度に大阪府立大阪南視覚支援学校で行った体験授業の実例を同校教諭と当館学芸員から紹介した。また、大阪市立中大江小学校にて実施した出張授業（綿繰り体験）の実例を担当学芸員が報告した。

なお、本事業は大阪市博物館機構主催「教員のための博物館の日」（参加者22名）を兼ねるものであった。

◇中学校教員の2年目研修受け入れ

8月2・5日 大阪市立茨田中学校・中野中学校 各1名

●学校団体（小中学校および高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

◇教育支援

（職場訪問）

7月8日	大阪府立高津高等学校1年生	5名
8月4日	大阪府立桜和高等学校1年生	4名
9月19日	島根県奥出雲町立横田中学校2年生	6名
（出前授業等）		
10月24・25日	大阪府立中大江小学校4年生	120名 来館授業（綿繰り体験）
2月27日	大阪府立中大江小学校3年生	120名 来館授業（近現代の大阪）
3月3日	大阪府立小路小学校3年生	35名 出張授業（綿繰り体験）

◇職業体験

7月26・27日	大阪府立桜和高等学校2年生	2名
10月24・25日	大阪府立住之江中学校2年生	3名
11月7・8日	大阪府立東中学校2年生	4名
11月14・15日	大阪府立北稜中学校2年生	2名

●考古学体験教室

本年度は「瓦の拓本」と「難波宮遺跡探訪（学芸員による遺跡案内）」を実施した。実施にあたっては、小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。11月6・7日に、2校111名の児童を受け入れた。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は9大学29名を受け入れ、2期に分けて実施した。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。

◇8月19日～23日 大阪大学4名・大阪公立大学7名、大谷大学1名、関西学院大学2名、同志社大学2名（計16名）

◇8月26日～8月30日 大阪大学5名、大阪公立大学3名、奈良大学2名、京都橘大学1名、佛教大学1名、立命館大学1名（計13名）

◇見学実習は、関西大学、大阪成蹊大学、龍谷大学、近畿大学、京都女子大学、大谷大学、奈良女子大学、甲南女子大

学、摂南大学の9大学から合計366名を受け入れた。

●その他

次年度以降の対応を念頭に、12月5日に大阪府立大手前高校の集中セミナーを視察した。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、開館以来ボランティアを導入していた。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。しかし、新型コロナウイルスのまん延により令和2年に通常の活動を休止し、新たな活動への移行を前提に令和5年5月に解散した。

同年11月に新規募集を開始し、選考・研修をへて令和6年4月から活動を開始した。令和6年度の登録者数は168名、活動日は原則として休館日を除く毎日、ただし台風接近のため8月28日から9月2日までの活動を中止した。活動日数は301日間、のべ活動人数は3,242名であった。

●日常の活動

※両方の活動を行うボランティアもいるため活動者の合計は登録者数に一致しない。

◇展示室サポーター（活動者139名、延べ活動人数2,387名）
常設展示室の各階に常駐して、困っている方への声かけや簡単な質問への応対、展示場の見回りなど、来館者のサポートを行う。

◇難波宮遺跡ガイドサポーター（活動者74名、延べ活動人数855名）
博物館の地下に保存された古代の宮殿・難波宮の遺跡を案内・解説するガイドツアーを担当する。

●上記以外の活動

各種イベントの際に運営補助を行った。

中学生の職場体験（遺跡ガイドツアー） 10月24・25日 7名、11月7・8日 5名、11月14・15日 5名

考古学体験教室（拓本補助） 11月6・7日 15名

考古学散歩「蔵屋敷を歩く」（案内補助） 1月18日・2月1

令和6年度 普及事業の回数（日数）と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	講座・講演会・見学会	6	676
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・講座・展示解説・見学会	33	1,290
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	8	307
	石組み水路公開	1	48
	難波宮遺跡探訪	302	2,837
	ハンズオン（むかしの瓦の拓本体験、両替商体験）	6	411
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	2	73
	教育支援（職場訪問）	3	15
	教育支援（出前授業）	4	275
	職業体験	4	11
	考古学体験教室	2	111
	博物館実習・見学実習の受入れ	11	395
地域・その他連携事業	共催事業ほか	8	684
ボランティア関連事業	ボランティア研修	7	167
合計		397	7,300

日 6名

わくわく子ども教室（綿繰り体験補助） 3月30日 10名

●研修

10月16・28日 拓本研修 15名・20名

12月14・18日 石組み遺構・XR難波宮研修 30名・33名

1月28日 難波宮史跡公園研修 49名

3月8・12日 綿繰り研修 9名・11名

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意思疎通を円滑にし、より良いボランティア活動を推進していく目的で、3月18日に開催した。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座2024「『博覧会』と『芸術・科学』～想像と創造の力」

（主催：大阪市博物館機構ほか）

大阪市立難波市民学習センターにおいて12月5日から3週連続、1日2講座（計6講座）開催された講座において、当館の奥本末世が12月12日に「20世紀からのメッセージ開封」と題して講演した。

●教員のための博物館の日2024

大阪市博物館機構事務局が主催し、教員向けに大阪市内の博物館・美術館を紹介する「教員のための博物館の日」に例年参加している。今年度は8月5日に実施し、参加者は22名であった。

同事業に関連し、12月13日に国立科学博物館が主催した「教員のための博物館の日2024」オンラインミーティングに参加し、他館での事例等について情報を得た。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館機構の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、本年度は、公立大学法人大阪、大阪大学、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪府教育センター附属高等学校が会員となり、年間利用者は順に508名、539名、4名、12名の合計1,063名であった。

●大阪公立大学との連携

大阪市博物館機構が法人として大阪公立大学と締結している包括連携協定事業に基づき、大阪公立大学開講の博物館関連講義へ下記の学芸員を派遣した。

- ・博物館経営論：大澤研一
- ・博物館資料保存論：松本百合子、寺井 誠
- ・博物館資料展示論：澤井浩一、豆谷浩之、杉本厚典、阿部文和

●近畿大学との連携

近畿大学との契約に基づき、下記の博物館学芸員養成課程の講座に学芸員を講師派遣し、受講生の指導にあたった。

- ・博物館実習A（前期） 大澤研一、澤井浩一、内藤直子、島崎未央、谷口正樹
- ・博物館実習B（後期） 澤井浩一

地域・その他の連携事業

●NPO法人まち・すまいづくりとの連携

NPO法人まち・すまいづくりとの連携によって、あべのハルカス等での広報事業において協力を得た。また同NPO法人との共催で、日本風の会大阪の協力のもと、なにわ歴博わくわく子ども教室「風づくりと風あげ」（2月2日）を実施した。参加者33名。

●クラブツーリズムとの連携

クラブツーリズムと連携し、マイクロツーリズムをはじめとした旅行企画を定期的に開発、販売、実施した。令和6年度には「古代最大の内乱一壬申の乱を追体験」（6/15 26名、5/11～12 27名）、「日本古代史のダイナミズム、宮都の変遷をめぐる旅」（7/21 32名、9/28 18名、10/26 16名、11/30 17名）、「倭城から通信使・倭館へ“波濤”を越えた交流の地 釜山・対馬」（11/4～8、19名参加）、「春を呼ぶ「若狭のお水送り」東大寺・二月堂「修二会」」（3/2～3 20名）、「秀吉の合戦と城郭」（3/3 24名）を企画・実施した。

●関西文化の日

11月18日に実施し、常設展示の観覧料を無料とした。計1,462名の観覧者があった。

●関西考古学の日2024（主催：「関西考古学の日」実行委員会）

9月1日～11月30日 スタンプラリー・景品授与

なお、本年度は上記に加え10月5日に関西考古学の日2024記念講演会『豊臣期大坂城と関西の織豊期城郭』を共催した。参加者は159名だった。

●大阪迎賓館との連携

7月28日と8月7日に大阪迎賓館とタイアップしたナイトツアーを開催した。参加人数の総計は71名だった。

●NTT都市開発への協力

大阪市による難波宮跡公園北部ブロック整備事業を担当するNTT都市開発と協定を結び、「なにわのみや1400 PROJECT」や「なノにわ」事業に難波宮関係資料を提供し、専門的知識を助言するとともに、特別展「大化改新の地、難波宮」などでポスター掲示やチラシ配布の相互広報を行った。

共催事業

●関西考古学の日2024 記念講演会『豊臣期大坂城と関西の織豊期城郭』（共催 関西考古学の日実行委員会）

10月5日「豊臣大坂城と戦国期畿内・織田の城一縄張り」と立地にみる連続性―」中西裕樹氏（京都先端科学大学特任准教授）、「石垣・瓦からみた近江の織豊期城郭―安土城・八幡山城を中心に―」山口誠司氏（公益財団法人 滋賀県文化財保護協会）、「京都市における秀吉の城―指月伏見城を中心に―」渡邊都季哉氏（公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所）、「姫路城 石垣の変遷」山本 誠氏（公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部）、「豊臣期大坂城の本丸中ノ段の新知見―地下7mの発掘調査から―」清水和明氏（一財 大阪市文化財協会）・岡本 健 159名

●第40回 歴史学入門講座（主催 歴史学入門講座実行委員会）

6月16日「歴史家がやっていること、やっていると思われること」松沢裕作氏（慶應義塾大学経済学部教授）93名

●第14弾なにわの宮リレーウォーク（主催 なにわの宮リレーウォーク実行委員会）

10月19日 講演会「大坂のまちは本願寺から始まった大坂本願寺から天満本願寺へ」「戦国乱世を生き抜いた大

坂本願寺」大澤研一 87名

●**聖武天皇即位 1300 年記念特別講演会「聖武天皇の宮—平城宮、恭仁宮、紫香樂宮、そして難波宮」**（主催 奈良文化財研究所）

10月27日 基調講演「聖武天皇の希望、苦悩、救い」栄原永遠男（当館名誉館長） 213名

●**シンポジウム「前期難波宮・藤原宮の儀礼と空間構成」**（主催 科学研究費・基盤研究（A）「東アジアにおける工匠関連史料にもとづく建築史の再構築と技術蓄積・伝播の解明」、東京大学史料編纂所「天皇家・公家の『知』の体系としての文庫・宝蔵研究拠点創設」プロジェクト）

11月17日 「前期難波宮朝堂院の空間構成」李 陽浩 51名

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」は平成26年以降、自主運営団体として活動している。当館からは役員として顧問を派遣しているほか、幹事会での助言や総会での講演、見学会への講師派遣を行ってきた。今年度は、講演会・見学会4回について講師を派遣し協力した。また、3月23日の館長講演会の際、友の会で独自に参加者を募った。令和6年度の会員数は135名（家族会員を含む）であった。

文化庁補助金等による取り組み

令和6年度「日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」

ミュージアム活性化実行委員会を、当館および地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪中之島美術館・大阪市立科学館・一般財団法人大阪市文化財協会・公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・大阪市立中央図書館で構成し、当館は中核館として参画した。大阪・関西万博に向けて、博物館機構全体で推進する館蔵資料のデータベース構築、アーカイブ化を進め、「大阪博」におけるスペシャルコンテンツとして重要文化財「関ヶ原合戦図屏風」、重要文化財「明王贈太閤冊封文」、「大塩焼図」と「出潮引汐奸賊聞集記」について、動画等の作成を行った。

展示改修計画

令和3年度に策定した展示改修基本計画に基づき、令和5年度に改修した特別展示室の壁面ケースと独立ケースの一部について空気環境の経過観察を行った。未改修の展示ケースは、文化庁・文化財活用センターの助言を得ながら適切な展示環境の維持に努めた。

広報宣伝活動

館の活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展・特別企画展関係が200件、特集展示関係が167件、館全体に関する内容・その他が83件であった。

年間展示予定はホームページ上にてPDF形式で公開した。

大阪市博物館機構より、プレスリリース配信サービスPR TIMESを通じて12件を配信した。（メディア転載512件）

その他の広報宣伝事業

●X（旧 Twitter）での情報発信

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。本年度の投稿数は414件、3月31日現在フォロワー数は13,006名である。

●Instagramでの情報発信

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。3月31日現在、投稿数は433件、フォロワー数は4,027名である。

●YouTube公式チャンネルでの動画公開

当館のYouTube公式チャンネルにおいて、2本（再編集・再アップ）の動画を公開し、これまでに公開された動画数は計63本となった。3月31日現在フォロワー数は1,438名である。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに911,964件、1日平均2,499件のアクセスがあった（前年度比で約123%）。また、1日の最大接続件数は5,120件（令和7年2月14日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

民間連携事業

令和4年度の文科省委託事業「文教施設による多様なPPP/PFIの先導的開発事業」を受け、今年度から、博物館の付加価値向上と来館者層の拡大を目的として、歴博魅力創造パートナーズ（株式会社JTBコミュニケーションデザイン（JCD）＋MTI株式会社）と事業連携を行い（5ヵ年計画）、レストラン事業、ショップ事業、学び×エンタメ事業、ユニークベニュー事業、広報・情報発信支援事業などの事業展開を行った。主な実施例として、新規ミュージアムグッズの商品化（3アイテム5商品）、レストランでの展覧会コラボメニューの開発（3展覧会9品目）、学び×エンタメ事業の実施（ショップでのシルクスクリーンワークショップ、レストランでの日本酒イベントなど計10回）、新規来館者に向けたサブ・ウェブサイト（「推せる！なにわ歴博」）の公開がある。

刊行物

令和6年度は下記3点を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要 第23号』

A4判154頁、令和7年3月

●『共同研究成果報告書17 大阪市の中世城館』

A4判96頁、令和7年3月

●『大阪歴史博物館年報 令和5年度』

A4判24頁、令和6年10月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては2テーマ、基礎研究においては1テーマを実施した。

●共同研究

◇浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究

担当：北上真生、中野朋子、岩佐伸一、谷口正樹

◇宗教に注目した前期難波宮の在来的要素についての基礎的研究

担当：李 陽浩

外部研究員：積山 洋 氏（（一財）大阪市文化財協会）

村元健一 氏（関西大学）

●基礎研究

◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究

担当：豆谷浩之

科学研究費助成事業による研究

【研究代表者】

◇基盤研究（C）：中野朋子

「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」

◇基盤研究（C）：内藤直子

研究分担者：岩佐伸一

「京金工・大月光興の研究―「文人金工」像の確立のために」

◇基盤研究（C）：寺井 誠

「タタキ板およびタタキ技法の復元を基にした異文化受容の多様性の研究」

◇基盤研究（C）：李 陽浩

「ゴヒラ使いの消長からみた古代建築の構法的変化に関する実証的研究」

◇基盤研究（C）：加藤俊吾

「文化資源としての伝世陶磁器 3D モデル作成の手法構築と普及」

◇基盤研究（C）：杉本厚典

研究分担者：豆谷浩之

「産業マップ作成による江戸・大坂の産業分布構造のモデル化」

◇若手研究：島崎未央

「都市大坂を拠点とする油・植物の流通構造」

◇研究活動スタート支援：猪岡叶英

「沖縄出身者による祖先祭祀の継承と実践―大阪を中心に―」

【外部機関の研究分担者】

◇基盤研究（C）：李 陽浩

研究代表者：南 秀雄 氏（（一財）大阪市文化財協会）

「日本列島と朝鮮半島南部の初期都市の比較研究―「国」を越えた社会基盤解明の試み」

個人の調査研究活動

●大澤研一

・専攻分野

(1) 日本中世史、大阪地域史

(2) 都市史、中世史

(3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について

・著述

「徳川家康と大阪―そのかかわりと痕跡を探る―」、pp. 1-8、令和6年4月

「東海道の宿を訪ねて―伊勢・関と亀山―」『近畿文化』899号、近畿文化会事務局、pp. 4-6、令和6年10月

「史料紹介 享保九年妙智焼け後の津村御坊再建・境内地拡張関係史料」『大阪歴史博物館研究紀要』第23号、大阪歴史博物館、pp. 53-62、令和7年3月

『朝鮮通信使と大阪 第2期』12～23「通信使が見た大坂―使行録を読む― 1617年：李景稷『扶桑録』①～⑫」、駐大阪韓国文化院ホームページ、令和6年4月～10月、12月～3月

・口頭発表

「行き交う船がつなぐもの―淀川を中心に―」第6回琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪～災害と舟運～、琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会、大阪工業大学梅田キャンパス、令和6年5月

「戦国を駆け抜けた明智光秀～その生涯と大坂～」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科、NPO法人シニア自然大学校、プリムローズ大阪、令和6年5月

「決戦！織田信長と本願寺の10年戦争」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科、NPO法人シニア自然大学校、プリムローズ大阪・北御堂ミュージアム、令和6年6月

「“強運”と策謀の藤原道長～四天王寺への祈りとともに～」南大江郷塾、南大江会館、令和6年6月

「細川ガラシャと大坂」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科、NPO法人シニア自然大学校、プリムローズ大阪、令和6年7月

「長州藩と通信使を乗せた川御座船」朝鮮通信使行列再現事業20周年記念シンポジウム 260年の時を超えて来航朝鮮通信使に学ぶ文化交流、国立海洋遺産研究所・下関市・釜山文化財団、海峡メッセ下関、令和6年8月

「徳川家康を苦しめた男・真田信繁」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科、NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル、令和6年8月

「宗教一揆から読み解く中世大阪」シニアCITYカレッジなにわ歴博コラボ歴史講座、NPO法人シニア自然大学校、大阪歴史博物館、令和6年9月

「歴史に学ぶ平野郷 ―在地都市の歩みと魅力―」大阪府高齢者大学校 大阪の史跡探訪科、NPO法人大阪府高齢者大学校、大阪府社会福祉会館、令和6年10月

「蓮如と本願寺 ―大坂の都市づくり―」阿倍野で学ぶ月曜講座「なにわ おおさかを創った人物像第1回、銀杏生涯学習会、阿倍野市民学習センター、令和6年10月

「戦国乱世を生き抜いた大坂本願寺」なにわの宮リレーウォーク、なにわの宮リレーウォーク実行委員会、大阪歴史博物館、令和6年10月

「歴史のなかの都市大阪 ―その歩みと人―」大阪府高齢者大学校市民公開講座「過去・現在・未来の都市づくりを考える」、NPO法人大阪府高齢者大学校、大阪歴史博物館、令和6年10月

「自治の気風 堺と平野」阿倍野で学ぶ月曜講座「なにわ おおさかを創った人物像第2回、銀杏生涯学習会、阿倍野

市民学習センター、令和6年10月

「豊臣大坂城を行き交った武将たち」阿倍野で学ぶ月曜講座「なにわ おおさかを創った人物像第3回、銀杏生涯学習会、阿倍野市民学習センター、令和6年11月

「黄金の日々の堺はよみがえるか？」堺市博物館フォーラム 中世都市堺の景観を考える、堺市博物館、堺市博物館、令和6年11月

「初期豪商たちは何をしたのか—淀屋・住吉屋たちの活動—」阿倍野で学ぶ月曜講座「なにわ おおさかを創った人物像第4回、銀杏生涯学習会、阿倍野市民学習センター、令和6年11月

「上町台地周辺の古道—尾根道と熊野街道—」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科、NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル、令和6年12月

「浪華の風景今昔—江戸時代の姿を訪ねて—」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科、NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル、令和6年12月

「大阪を復活させた男 五代友厚」阿倍野で学ぶ月曜講座「なにわ おおさかを創った人物像第6回、銀杏生涯学習会、阿倍野市民学習センター、令和6年12月

「今、注目される城東区の歴史アラカルト」城東区ゆめ〜まち〜未来会議／城東区役所、城東区民センター、令和7年1月

「大坂冬の陣・夏の陣」大阪府高齢者大学校 武家政権の合戦地探訪科、NPO 法人大阪府高齢者大学校、令和7年1月

「紀州街道をたどる」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科、NPO 法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル、令和7年2月

「大阪の景観を演出した橋たち」シニアCITYカレッジなにわ歴博コラボ歴史講座：「近世大阪学」、NPO 法人シニア自然大学校、令和7年3月

「蓮如上人が造った日本初の寺内町 吉崎」特別展「福井県民の幸福度日本一は蓮如上人から」講演会、一般財団法人本願寺文化興隆財団、吉崎御坊蓮如上人記念館、令和7年3月

「よみがえった朝鮮通信使船—その歴史と来航への期待—」館長講座、大阪歴史博物館、令和7年3月

●調査活動

金沢御堂跡、吉崎御坊跡現地踏査、令和6年4月

松谷光徳寺所蔵法宝物調査、令和6年11月〜

●その他

新聞記事「金沢御堂跡を調査」コメント、北國新聞社、令和6年4月

●澤井浩一

●専門分野

(1) 畿内村落における祭祀組織の研究

(2) 近畿地方を中心とした芸能史研究

(3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究

●著述

「芳瀧画 浪花百景 永代浜」『大阪松竹座七月大歌舞伎番付』、p.30、令和6年7月

「大阪ヒストリー—百色眼鏡 四天王寺の聖霊会—」『MACHINAMI』550、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和6年4月

「大阪ヒストリー—百色眼鏡 おおさか街あるき—キタ・ミナミ芸能編—」『MACHINAMI』551、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和6年5月

「大阪ヒストリー—百色眼鏡 シーボルトが訪れた大坂—

『MACHINAMI』555、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和6年10月

「大阪ヒストリー—百色眼鏡 大坂の劇場—」『MACHINAMI』556、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和6年11月

●口頭発表

「近松門左衛門作品でたどる大坂」シニアCITYカレッジ「文学を楽しむ科」、令和6年5月21日

「なにわ歳時記〜住吉大社の御田植神事〜」大阪自由大学「新・大阪学事始」、令和6年6月5日

「中世の芸能と祭礼—大阪市内の御田植神事を例に—」シニアCITYカレッジ「なにわ歴博コラボ講座」、令和6年8月19日

「なにわ歳時記〜大阪の年中行事と食〜」大阪自由大学「新・大阪学事始」、令和7年1月28日

「近世大阪の祭り、あれこれ」シニアCITYカレッジ「なにわ歴博コラボ講座」、令和7年2月10日

「大阪の笑い文化について」NHK ラジオ第一『関西発ラジオ深夜便〜かんさい玉手箱〜「大阪歴史散策」』、令和7年3月15日

●その他

大阪府文化財保護審議会委員 令和6年8月〜

大阪府公文書館運営懇談会委員 令和6年12月26日

吹田市立博物館運営協議会委員 令和6年度中

●松本百合子

●専門分野

(1) 考古学

(2) 仏教美術史、近世製油業の研究

(3) 近世貿易陶磁の研究

●口頭発表

「蔵屋敷の蔵と産物—高松藩蔵屋敷の場合—」蔵屋敷を掘る講演会、令和7年2月15日

●その他

クラブツーリズム「日本古代史のダイナミズム、宮都の変遷をめぐる旅」第1回「大化改新の地、難波宮」講師、令和6年7月21日、第3回「平城京と宮」講師、令和6年10月26日

クラブツーリズム「春を呼ぶ〈若狭のお水送り〉東大寺・二月堂〈修二会〉」講師、令和7年3月2・3日

●李 陽浩

●専攻分野

(1) 建築史・都市史

(2) 古代東アジア建築史

(3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

●著述

「難波宮・京における近年の発掘成果について」、『特別展 大化改新の地、難波宮』展覧会図録、大阪歴史博物館、pp.73-77、令和6年7月

「街歩きと展覧会を連動させる試み：特別企画展「おおさか街あるき —キタ・ミナミ—」を例に」、『博物館研究』第59巻第8号、pp.18-22、令和6年8月

「曹魏陵雲台の建築構造：『世説新語』工藝篇の一解釈」、『大阪市文化財論集Ⅱ』、pp.227-239、令和6年12月

「もう一度訪ねたい日本の遺跡 [49] 史跡難波宮跡」、『月刊教育旅行』第73巻2号（通巻825号）、pp.2-3、令和7年2月

『難波宮発掘七十年史』（分担執筆）、一般財団法人 大阪市文化財協会、令和7年3月

●口頭発表

「難波宮周辺と街道」、てくてくウォーキング、NPO 法人 大阪北部コミュニティカレッジ、令和6年5月10日

「難波宮の内裏と難波宮跡公園」、NPO 法人 大阪観光ボランティアガイド協会 講演会、NPO 法人 大阪観光ボランティアガイド協会、令和6年5月31日

「古代四天王寺の伽藍造営と建築」、令和6年度春季企画展「四天王寺と古代王権」講演会 大阪府立近つ飛鳥博物館、令和6年6月2日

「風納土城の建築遺構ノート：特徴的な事例・ディテールについて」、「日本列島と朝鮮半島南部の初期都市の比較研究－「国」を越えた社会基盤形成の解明」研究会、令和6年6月8日

「大化改新の地、難波宮」をめぐって」、歴史街道倶楽部「歴史ものがたりセミナー」、歴史街道推進協議会、令和6年8月2日

「難波宮跡の最近の調査成果について」、南大江 郷塾 第72回、南大江地域活動協議会、令和6年8月20日

「前期・後期難波宮を考える」、シニアCITYカレッジ講座 総合文化科、認定NPO 法人シニア自然大学校、令和6年9月4日

「地域の博物館における歴史文化遺産の保全と活用：大阪歴史博物館開催の2つの展覧会を例に」、地域歴史遺産保全活用基礎論B、神戸大学大学院人文学研究科、令和6年11月7日

「前期難波宮朝堂院の空間構成」、シンポジウム「前期難波宮・藤原宮の儀礼と空間構成」科学研究費・基盤研究費(A)「東アジアにおける工匠関連史料にもとづく建築生産史の再構築と技術蓄積・伝播の解明」(研究代表者：海野聡)、東京大学史料編纂所「天皇家・公家の「知」の体系としての文庫・宝蔵研究拠点創設」プロジェクト、令和6年11月17日

「難波宮と法門坂倉庫群」、大阪観光ボランティアガイド協会研修、NPO 法人 大阪観光ボランティアガイド協会、令和6年11月21日

「前期難波宮造営の諸段階をめぐって：設計・造営・完成に関するノート」、都城制研究会、令和6年12月14日

「難波宮と大化改新」、シニアCITYカレッジ講座 歴史を楽しむ科、認定NPO 法人シニア自然大学校、令和7年1月27日

●その他

「大化改新の地、難波宮」、「日本古代史のダイナミズム、宮都の変遷をめぐる旅」第1回、クラブツーリズム株式会社、令和6年7月21日

「恭仁宮と紫香楽宮：聖武のさまよえる都」、『宮都の変遷をめぐる旅 最終回』、クラブツーリズム株式会社、令和6年11月30日

●中野朋子

●専攻分野

- (1) 美術史・服飾史
- (2) 近代工芸史、近世服飾史
- (3) 近代大阪の陶業史研究、近世後期の京坂における服飾・風俗動向の研究

●著述

「明治十三年三月の藪明山」、『大阪歴史博物館 研究紀要』第23号、大阪歴史博物館、pp.27-42、令和7年3月
研究成果報告書『藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房運営に関する研究』、令和7年3月

●口頭発表

「モードとデザインのまち・心斎橋、《きもの文化》は消えたのか?」、ミニ講座と座談会「一観て 聴いて 考えるー心斎橋ときもの これまでとこれから」、令和6年11月24日

●調査活動

科学研究費補助金(基盤研究(C)19K00209「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」)により、大阪、京都、愛知、東京で調査を行った。

大阪歴史博物館共同研究「浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究」により、大阪市天王寺区において調査を行った。

●教育活動

大阪藝術大学「服飾史」非常勤講師

●杉本厚典

●専門分野

- (1) 日本考古学
- (2) GIS考古学、産業マップ、弥生土器・土師器の編年研究

●著述

「『買物案内記』をもとにした江戸時代大坂の石問屋・硯屋・砥石問屋等の分布」『関西近世考古学研究』30 pp.1-14 令和6年11月

「初期国家と都市論との接点を探るー難波宮下層遺跡研究の深化のために」『大阪市文化財論集』Ⅱ(一財)大阪市文化財協会 pp.125-142 令和6年12月

(豆谷浩之氏と共同執筆)「『難波丸綱目』延享版と安永版からうかがえる国問屋と專業問屋の比較」『大阪歴史博物館研究紀要』第23号 pp.39-62 令和7年3月

●口頭発表

「地形の変遷で見る大阪」もっと知りたい大阪の歴史科 大阪府高齢者大学校 令和6年4月17日

「『買物案内記』をもとにした江戸時代大坂の石問屋・硯屋・砥石問屋等の分布」関西近世考古学研究会 令和6年11月30日

「大名たちの大坂蔵屋敷の実態をさぐる」なにわ歴博コラボ 歴史講座 2024 秋冬「近世大阪学」あれこれ シニアCITYカレッジ 令和7年1月27日

「近世大坂発展の原動力ー大名たちの蔵屋敷」歴史ものがたりセミナー 歴史街道推進協議会 令和7年2月19日

●阿部文和

●専攻分野

- (1) 日本建築史
- (2) 建築儀礼と棟札に関する研究

●加藤俊吾

●専攻分野

- (1) 考古学、考古学史、博物館史
- (2) 文化財の三次元データ化とその利活用

●著述

「大阪歴史博物館における三次元データ化の実践と成果ー遺構・文化財建造物を対象に一」『大阪歴史博物館研究紀要』23号、大阪歴史博物館、令和7年3月31日 *山口欧志・仲林篤史と共同執筆。

●安岡早穂

●専攻分野

- (1) 考古学
- (2) 前近代漁撈

(3) 食文化史

- ・著述
「大阪ヒストリー百色眼鏡 大化改新の地、難波宮」『MACHINAMI』553、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和6年7月
- ・口頭発表
「特別展『大化改新の地、難波宮』をもっと楽しむために」南大江郷塾、令和6年7月16日
- ・その他
「関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱“大阪歴史散策”」NHKラジオ第一、令和6年7月13日

●谷口正樹

- ・専攻分野
(1) 日本中世史
(2) 都市史、地域社会論
(3) 戦国期地域社会構造の変容過程
- ・著述
「十五世紀―十六世紀堺のネットワークについて」『ヒストリア』308、pp.49-62、令和7年2月
『共同研究成果報告書17 大阪市中世城館』大阪歴史博物館、令和7年3月（分担執筆）
- ・口頭発表
「平安後期～鎌倉時代の大坂」シニア自然大学校、令和6年4月
「戦国期の摂河泉地域における武家法（禁制）について」大阪公立大学日本史学会大会、令和6年5月
「南北朝～室町時代の大坂」シニア自然大学校、令和6年5月
「高山右近」シニア自然大学校、令和6年5月
『「信長公記」の持つ意義―歴史資料としての価値と、後世の「信長もの」への影響―』シニア自然大学校、令和6年6月
「大坂（石山）本願寺から江戸時代の大坂」大阪府高齢者大学校、令和6年6月
「室町～戦国時代の大坂」シニア自然大学校、令和6年6月
「太平の世への道なり」シニア自然大学校、令和6年10月
「大阪の戦国時代を考える」大阪府民カレッジ、令和6年11月
「語り継がれる武将たち」シニア自然大学校、令和6年11月
「戦国時代の物流と都市大坂」シニア自然大学校、令和6年11月
「戦国期の摂河泉における禁制について」関西比較中世都市研究会、令和6年12月
「清和源氏とその末裔たち」川西市清和台公民館講座、令和7年2月
- ・調査活動
令和7年3月29日 壺井八幡宮所蔵資料の調査
共同研究「浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究」にともなう浄照坊所蔵資料の調査
- ・その他
「関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱～“大阪歴史散策”」NHKラジオ第一、令和6年5月11日

●内藤直子

- ・専攻分野
(1) 京金工の研究
(2) 大月派の研究
(3) 京後藤家の研究

(4) 近代大阪の工芸史研究

- ・著述
内藤直子「刀装具の図案と下絵―伊勢物語モチーフの作例から―」河田昌之・赤澤真理・大口裕子・伊永陽子『伊勢物語 造形表現集成』思文閣出版 令和6年4月
内藤直子「京後藤家作品論―五島美術館所蔵品を中心に（前編）」『五島美術館研究紀要』令和7年3月
- ・雑誌連載
内藤直子「学芸員のRockなTalk」『刀剣画報』令和6年10月号、12月号、2月号
- ・委員等受嘱
・文化庁文化審議会専門委員（第一専門調査会・第四専門調査会）
・文化庁文化財研修事業（伝統工芸・文化財保存技術）企画選定委員
・東京国立博物館購入候補文化財評価員
・京都国立博物館文化財購入買取協議委員
・長浜曳山祭行事・曳山保存専門委員会委員
・大津祭保存会保存修理専門委員
・日野曳山保存会保存修理専門委員
・日本刀文化振興協会主催「新作日本刀研磨外装刀職技術展」審査員
・全日本刀匠会「お守り刀展覧会」審査員
- ・大学出講
大阪大学（博物館展示論）

●俵 和馬

- ・専攻分野
(1) 民俗学
(2) 環境民俗学
(3) 自然観、生業、民具、民間信仰、文化資源
- ・著述
「入鹿の首塚」『特別展 難波宮発掘開始70周年記念 大化改新の地、難波宮―古代日本のターニングポイント―』図録、p.31、大阪歴史博物館、令和6年7月
「大阪ヒストリー百色眼鏡 大阪と民間信仰のことなど」『MACHINAMI』554、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和6年9月
「大阪ヒストリー百色眼鏡 稲作民俗を訪ねて」『MACHINAMI』557、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和6年12月
- ・口頭発表
「学芸員の仕事・資料調査―収集する／された資料、借用する資料―」博物館概論・自校学習（ゲストスピーカー）、近畿大学文芸学部、令和6年5月7日
「モノが語る人びとのコト―民具・景観から考えるおおさかの暮らし―」令和6年度大阪連続講座「大阪で暮らし―いまむかし―」、大阪市立中央図書館、令和6年8月3日
「民俗資料が語る地域の記憶」大阪自治体史連絡協議会、寝屋川市教育委員会、寝屋川市立中央図書館、令和6年9月4日
「文化をつなぐお仕事」（ディスカッション）近畿大学文芸学部学科講演会、令和6年10月29日
「庶民信仰からみる近世大阪の祈りと願い」シニアCITYカレッジ「近世大阪学」あれこれ、大阪歴史博物館、令和6年12月9日
「異界流離譚―信仰・怪異伝承の環境民俗論―」なにわ歴史博講座、大阪歴史博物館、令和7年2月16日
- ・調査活動
令和7年1月7日 和歌山県紀美野町の民俗調査（近畿大

学芸学部・近畿大学民俗学研究所)

- その他
クラブツーリズム「日本古代史のダイナミズム、宮都の変遷をめぐる旅」講師 令和6年7月21日「第1回 一日学校「難波宮～大化改新の地～」特別プログラム」、令和6年9月28日「第2回 飛鳥・藤原宮～宮都の初源と条坊制の完成～」

●奥本末世

- 専攻分野
(1) 歴史学
(2) 日本近現代史
(3) 近代文化、舞台意匠にかかわる研究
- 口頭発表
「20世紀からのメッセージ開封」ミュージアム連続講座 2024、令和6年12月12日

●寺井 誠

- 専攻分野
(1) 考古学
(2) 日本列島と朝鮮半島の交流史
(3) タタキ技法を基にした弥生～平安時代の土器製作技法の比較研究
- 著述
「軟質土器から土師器へ」『季刊考古学』第167号 雄山閣、pp.25-28、令和6年4月
「激動の7世紀—難波遷都前後の東アジア—」『大化改新の地、難波宮 古代日本のターニングポイント』大阪歴史博物館、p.17、令和6年7月
「日本列島・朝鮮半島の木製タタキ板について」『大阪市文化財論集』Ⅱ 大阪市文化財協会、pp.43-59、令和6年12月
「甗の製作技法の継承と転換」『大阪歴史博物館研究紀要』第23号 大阪歴史博物館、pp.19-38、令和7年3月
- 口頭発表
「吹田市域の渡来人とその故郷を探る」吹田市立博物館、令和6年5月11日
「内と外に秘められた土器のふるさと」大阪府立狭山池博物館、令和6年10月13日
「河内湖東岸の渡来人とその故郷一堂山1号墳の時代の対朝鮮半島交流—」大東市立歴史民俗資料館、令和6年12月21日
- 調査活動
科学研究費補助金（基盤研究（C）22K00994「タタキ板およびタタキ技法の復元を基にした異文化受容の多様性の研究」）により、福岡県、石川県、韓国慶尚南道などで実物資料調査を行った。

●岩佐伸一

- 専門分野
(1) 美術史
(2) 日本絵画史
(3) 江戸時代後期の上方の絵画
- 口頭発表
「江戸時代後期の京坂と近隣地域における合作書画の諸相について—制作背景と揮毫者を中心に—」Symposium: Creative Collaborations in Kyoto, Osaka and Beyond, 1770-1900 Organised by the British Museum, SOAS University of London (School of Oriental and African Studies) 令和6年9月

「江戸時代後期における書画の競演《寄合描き》について 生野と京坂を中心に」第14回生野銀山石川家文書の魅力を語る会 生野マインホール 令和7年3月

●岡本 健

- 専攻分野
(1) 日本考古学
(2) 中世・近世考古学
(3) 戦国・織豊期における造瓦活動・城郭の研究
- 著述
「出土した瓦から秀吉の大坂城を探る」『MACHINAMI』令和6年6月号、(一財)大阪府建築士事務所協会、令和6年6月
「近世・近畿」『考古学ジャーナル』第769号、pp.113-114、ニューサイエンス社、令和6年5月
「大阪歴史博物館蔵「丸岡城石瓦」について」『大阪歴史博物館研究紀要』第23号、pp.63-70、令和7年3月
『共同研究成果報告書17 大阪市の中世城館』大阪歴史博物館、令和7年3月（編集・共同執筆）
- 口頭発表
「豊臣時代の金箔瓦と家紋瓦」歴史街道倶楽部 歴史ものがたりセミナー、大阪歴史博物館、令和6年4月
「中世大阪の城跡をさぐる」シニアCITYカレッジ 第5回なにわ歴史コラボ歴史講座「中世大阪学」ことはじめ、大阪歴史博物館、令和6年7月
「豊臣期大坂城の本丸中ノ段の新知見—地下7mの発掘調査から—」関西考古学の日2024 記念講演会『豊臣期大坂城と関西の織豊期城郭』、大阪歴史博物館、令和6年10月（清水和明氏と共同発表）
- その他
クラブツーリズムツアー「秀吉の合戦と城郭」第1回「大坂城と城下町の痕跡をたどる」令和7年3月3日

●豆谷浩之

- 専門分野
(1) 日本近世史・近世考古学
(2) 近世都市史
(3) 大名等の大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較
- 著述
「出土文字資料からみた梅田墓の性格について」『大阪市文化財論集Ⅱ』（一財）大阪市文化財協会 pp.315-328 令和6年12月
- 口頭発表
「江戸時代の大坂の暮らしと経済」大阪府高齢者大学校 令和6年6月19日
「大阪と江戸との都市比較史」大阪シニア大学 令和6年8月2日
「蔵骨器の墨書から考える梅田墓の性格」第78回日本人類学会大会公開シンポジウム「分野横断的な研究手法から探る、近世大坂都市住民の生活・病氣・死」大阪大学中之島芸術センター 令和6年10月14日
「近世初期までの喜連」喜連村史の会 令和7年1月11日
「中之島界隈蔵屋敷跡」大阪府高齢者大学校 令和7年1月15日
「大阪と江戸との都市比較史」奈良シニア大学 令和7年2月19日
- 大学での講義
大阪大学「博物館学概論」（前期）

- その他

市民の古文書学習支援（喜連村史の会）令和6年4月27日、5月18日、6月15日、7月20日、9月21日、10月19日、11月16日、12月21日、令和7年1月18日、2月22日、3月15日

- 島崎未央

- 専攻分野

- (1) 日本近世史・流通社会史
- (2) 都市史、村落史
- (3) 灯明油の生産と流通

- 著述

「出油屋・西村屋七郎兵衛家文書の紹介」『大阪歴史博物館研究紀要』23号、大阪歴史博物館、pp. 43-52、令和7年3月

- 口頭発表

「『天下の台所』大坂」NPO 法人大阪府高齢者大学校、令和6年9月

「大坂城を支えた人びと—大坂城と周辺農村の関係から—」シニアCITY カレッジ近世大阪学、NPO 法人シニア自然大学校、令和6年10月

「『天下の台所』大坂の灯明油」NPO 法人シニア自然大学校、令和6年10月

「ものづくり都市大坂を支えた人びと」なにわ大坂をつくった人物像、銀杏生涯学習会、令和6年12月

- 調査活動

学術研究助成基金助成金（若手研究 20K13191）「都市大坂を拠点とする油・種物の流通構造」により、関西や瀬戸内地域の廻船寄港地を中心に調査や資料の収集を行った。

- 北上真生

- 専攻分野

- (1) 日本史学・日本文学
- (2) 近世文化史・近世政治史・近世文学
- (3) 大阪における御用菓子司の研究、三田藩九鬼氏の基礎的研究、「志摩軍記」の基礎的研究

- 著述

「なにわの豪気な美術家・天岡均一」『美術の窓』43巻5号、生活の友社、pp.152-153、令和6年5月20日

「近代大阪の美術工芸家・天岡均一の基礎的考察」『大阪歴史博物館研究紀要』第23号、大阪歴史博物館、pp.1-26、令和7年3月31日

- 口頭発表

「九鬼嘉隆・守隆～九鬼水軍の盛衰と近世大名・九鬼家のあゆみ～」シニアCITY カレッジ、ホテルプリムローズ大阪、令和6年6月10日

「大阪の和菓子」シニアCITY カレッジ、大阪歴史博物館、令和6年11月18日

「なにわ名医列伝 緒方洪庵・郁蔵と森鼻宗次」大阪府高齢者大学校、大阪府社会福祉会館、令和6年12月11日

- 調査活動

浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究（大阪歴史博物館共同研究）令和6年4月1日～令和7年3月31日

天岡均一・落香関係資料の悉皆調査 令和5年10月1日～令和6年8月31日

- その他

三田天満神社宝物の保存環境および管理にかかる指導・助言 令和6年4月1日～令和7年3月31日

- 猪岡叶英

- 専攻分野

- (1) 日本近現代史、民俗学
- (2) 在阪沖縄出身者の人生儀礼および祖先祭祀に関する研究

- 著述

「旧南区の「戦後風景写真」について」『大阪歴史博物館研究紀要』第23号、pp.63-72、令和7年3月

- 口頭発表

「稲作の調査状況について—農事組合法人ゆめ野山を中心に—」五條市史民俗部会・生業班、オンライン開催、令和6年9月4日

- 調査活動

学術研究助成基金助成金（研究活動スタート支援 24K22567）「沖縄出身者による祖先祭祀の継承と実践—大阪を中心に—」により、大阪府などを中心に文献調査や聞き取り調査を行った。

- その他

五條市史編集委員会専門部会（民俗部会）調査補助員 令和6年度

受嘱・派遣・視察

受嘱

日 付	受嘱先	担当者
R6.11.14・15・27・28	柏原市立歴史資料館	大澤研一

派遣依頼対応

日 付	派遣先	担当者	日 付	派遣先	担当者
R6.4.15～R6.9.2	シニア自然大学校	大澤研一	R6.11.28	認定 NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ	島崎未央
R6.4.24	歴史街道推進協議会	岡本 健	R6.12.9	銀杏生涯学習会	島崎未央
R6.5.19	大阪歴史博物館友の会	島崎未央	R6.12.9	シニア自然大学校	俵 和馬
R6.5.19	大阪府立近つ飛鳥博物館	李 陽浩	R6.12.15～	韓国・嶺南文化遺産研究院	李 陽浩
R6.6.2	大阪府立近つ飛鳥博物館	李 陽浩	R6.12.17		
R6.6.27、8.28	駐大阪韓国文化院	大澤研一	R7.1.27	シニア自然大学校	杉本厚典
R6.9.24	株式会社 神宗	島崎未央	R7.2.9	大阪歴史博物館友の会	豆谷浩之
R6.10.14	銀杏生涯学習会	大澤研一	R7.2.10	シニア自然大学校	澤井浩一
R6.10.19	なにわの宮リレーウォーク実行委員会	大澤研一	R7.2.19	歴史街道推進協議会	杉本厚典
R6.10.20	大阪歴史博物館友の会	豆谷浩之	R7.3.2	大阪歴史博物館友の会	豆谷浩之
R6.10.23	認定 NPO 法人 大阪府高齢者大学校	大澤研一	R7.3.10	シニア自然大学校	大澤研一
R6.10.28	シニア自然大学校	島崎未央	R7.3.19	一般財団法人本願寺文化興隆財団	大澤研一
R6.11.18	シニア自然大学校	北上真生	R7.3.21	寝屋川市立中央図書館	北上真生

視察受入

年月日	来訪者	人 数	目 的	対 応
R6.4.19	韓国・国立海洋博物館	5	学術交流	企画広報課・学芸課
R6.4.29	上海市歴史博物館	5	学術交流	学芸課
R6.5.15	韓国・（財）加耶文物研究院	17	館内視察	学芸課
R6.5.17	韓国・ソウル歴史博物館	2	学術交流	館長・学芸課
R6.6.6	中華人民共和国駐大阪総領事館	3	館内視察	館長・学芸課
R6.7.4	中華人民共和国駐大阪総領事館	2	館内視察	館長・学芸課
R6.8.9	台北・国立故宫博物院南部院区	1	学術交流	学芸課
R7.2.6	TK Reekie-Buckland 氏、大阪市経済戦略局国際担当職員	2	館内視察	総務課

令和6年度大阪歴史博物館入場者数

月	令和6年度 常設展					令和6年度 特別展					合計	その他入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	13,555	761	14,316	3,319	17,635	0	0	0	0	0	17,635	2,858
5	15,623	1,358	16,981	6,204	23,185	0	0	0	0	0	23,185	3,417
6	13,730	1,153	14,883	5,701	20,584	0	0	0	0	0	20,584	3,477
7	18,592	1,528	20,120	4,913	25,033	4,345	369	4,714	1,717	6,431	31,464	4,355
8	20,755	1,915	22,670	6,134	28,804	5,187	575	5,762	2,478	8,240	37,044	4,226
9	16,596	1,063	17,659	3,899	21,558	0	0	0	0	0	21,558	2,897
10	18,121	1,480	19,601	5,832	25,433	7,892	321	8,213	1,971	10,184	35,617	4,040
11	15,407	970	16,377	9,820	26,197	11,456	566	12,022	5,154	17,176	43,373	4,420
12	10,724	914	11,638	3,981	15,619	1,389	81	1,470	331	1,801	17,420	2,627
1	12,058	1,034	13,092	5,880	18,972	0	0	0	0	0	18,972	2,579
2	13,567	1,105	14,672	4,667	19,339	0	0	0	0	0	19,339	3,388
3	15,142	1,220	16,362	3,588	19,950	0	0	0	0	0	19,950	3,624
合計	183,870	14,501	198,371	63,938	262,309	30,269	1,912	32,181	11,651	43,832	306,141	41,908
									総合計		348,049	

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数などが含まれる。

※令和6年4月30日、8月13日 臨時開館

※令和6年8月21日～8月26日 開館時間延長（～18時）

利用規定

大阪歴史博物館利用規程

制定 平成31年4月1日

(趣旨)

第1条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）の利用に関しては、この規程の定めるところによる。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）

- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、博物館の館長（以下「館長」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、事前に又は速やかに理事長の承認を得て同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 館長は、前項の休館を行う場合、事前に又は速やかにその内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第3条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第3条第2項の規定により読み替えられた第2条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第4条 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第5条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不適当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第6条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第4条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この規程に違反し、又はこの規程に基づく指示に従わないとき

(意見の聴取)

第7条 館長は、必要があると認めるときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう理事長に求めるものとする。

2 理事長は、前項の規定による求めがあったときは、第5

条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第8条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(特別観覧の許可)

第9条 博物館等資料について特別の観覧をしようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 特別の観覧に関する手続きについては、別に定める。

(貸出しの許可)

第10条 博物館等資料の貸出しを受けようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 博物館等資料の貸出しに関する手続きについては、別に定める。

(利用料金)

第11条 博物館を観覧し、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、館長に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

2 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、別に定める種別に応じて館長が要項で定める金額）

3 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

4 施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 理事長は、前3項の承認（貸出し料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

6 館長は、公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、別に定める要項に基づき、利用料金を減額し、又は免除することができる。

7 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

- (1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
- (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、館長がその理由を相当と認め

運営組織

大阪歴史博物館は、大阪市が設立する地方独立行政法人大阪市博物館機構が設置し、管理運営を行う。

組織

館 長 大澤研一			
総 務 課	課 長 塚田 義 係 長 羽室有加里 主 任 桜井香栄 係 員 西村安希子 山本幸恵 小川泰伸	白川貴子 原田立子 樋口祥子 中村祥子 藤原和郎	
企画広報課	課 長 澤井浩一 企画広報係 主任学芸員 情報資料係 係 長 中野朋子 杉本厚典 阿部文和 柴田晃子 加藤俊吾 安岡早穂 谷口正樹 小林佳美 宮下愛子		
研究副主幹		内藤直子	
学 芸 課	課 長 松本百合子 課 長 代理 李 陽浩 学芸第1係 係 長 内藤直子（兼務） 係 員 俵 和馬 奥本末世 寺井 誠 岩佐伸一 岡本 健 川端優子（総務課兼務） 学芸第2係 係 長 豆谷浩之 主任学芸員 島崎未央 北上真生 学芸第3係 係 長 猪岡叶英 係 員		

人事

新規採用（令和6年4月1日）	総 務 課 係 員 藤原和郎
	学 芸 課 係 員 猪岡叶英
新規採用（令和6年5月1日）	学 芸 課 係 員 奥本末世
新規採用（令和6年10月1日）	総 務 課 係 員 中村祥子
転 入（令和6年4月1日）	総 務 課 係 長 白川貴子 （事務局経営企画課兼大阪・関西万博関係事業推進室より）
転 入（令和6年5月1日）	総 務 課 係 員 樋口祥子 （大阪市立東洋陶磁美術館より）
転 出（令和6年5月1日）	総 務 課 主 任 原田立子 （大阪市立東洋陶磁美術館へ）
転 出（令和6年10月1日）	総 務 課 係 員 山本幸恵 （大阪市立科学館へ）
退 職（令和7年3月31日）	総 務 課 係 員 藤原和郎

て当該使用許可を取り消したとき

(3) その他館長が特別の事由があると認めるとき
(特別設備)

第12条 使用者は、館長の許可を受け、特別の設備をすることができる。

2 館長は、使用者に対して必要な設備をすることを命ずることができる。

3 使用者が前第1項、第2項の規定により、特別の設備をしたときは、使用後直ちにこれを撤去して、原状に復さなければならない。

(損害の賠償及び事故の責任)

第13条 博物館を観覧する者又は施設の使用の許可を受けた者が建物、設備又は博物館等資料を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

2 使用者は、使用に関して生じた一切の事故につき、その責めを負うものとする。

附 則

(施行期日)

1 この規程の施行期日は、平成31年4月1日とする。

2 本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表第1（第4条、第11条関係）

区分	施設使用料
講 堂	1室1日につき 36,000円
第1研修室	1室1日につき 15,200円
第2研修室	1室1日につき 8,200円
第1会議室	1室1日につき 7,500円
第2会議室	1室1日につき 7,000円
第3会議室	1室1日につき 7,300円
特別展示室	1室1日につき 96,800円

別表第2（第11条関係）

区分		観覧料	団体 (20人以上) 観覧料
常 設 展示室	高等学校、高等専門学校、 大学及びこれらに準ずる 教育施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特 別 展示室	高等学校、高等専門学校、 大学及びこれらに準ずる 教育施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

大阪歴史博物館年報 令和6年度

令和7年10月18日発行©

編集・発行 大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本 能登印刷株式会社
〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Oct. 2025